

平成29年度

思いや考えを 深める子の育成

～主体的・対話的で深い学びを通して～



中野区立緑野小学校

目次

はじめに

校長 駒崎 彰一

I 研究の概要

- 研究主題と主題設定の理由
- 研究構想図
- 研究経過

II 研究の実践

- ◆低学年分科会
- ◆中学年分科会
- ◆高学年分科会

III 研究のまとめ

- 研究の成果と課題

IV 研究発表会資料

おわりに

副校長 牧岡 優美子

研究に携わった教職員

未来社会を見据えた「未来の学び」を創造する

校長 駒崎 彰一

平昌冬季オリンピックの開・閉会式で、1,218機のドローンが空を舞い、大空に鮮やかなアニメーションを描き出した。これまでに見たことのない光景であったと感じた人も多いのではないだろうか。この挑戦は、すでに数年前から始まっていた。アメリカのスーパーボウル 2017のハーフタイムショー、レディ・ガガの後ろで宙を舞っていたドローン 300機がアメリカ国旗を振っているような動きを見せた。(本年度の学び「Drone Impact Challenge Education」で6年生は、この映像を視聴している。) 今回の「平昌」で登場したドローンは、その4倍もの数であった。

この大規模なショーを実現したのは、インテル社のLED搭載ドローンシステム「シューティングスター」であった。そして、これを操ったインテル社のドローン・チームの存在である。

このドローン・チームは、このプロジェクトを進める中で表出した課題をチームで試行錯誤しながら1つずつ解決することで、プロジェクトを「成功」に導いている。

ドローンを活用したプロジェクトでの最大の課題は「バッテリー」である。リチウムイオン電池の技術的な限界により、ドローンは通常 20分程度しか飛行できない。飛行時間とバッテリー重量の関係が最大の課題となる。また、実際にパフォーマンスを繰り広げる空域から少し離れた場所から飛び立つので、さらにショーの時間は短くなる。約2年かけた試行錯誤による綿密な機体設計の調整で独自の技術を確認し、十分なパフォーマンスを創出した。

また、「寒さ」はバッテリーに影響を及ぼす。現地の気温は、マイナス 10℃以下で凍結寸前になる。「リチウムイオン電池は寒さに弱い。」このためドローン・チームは、フィンランドの過酷な環境下で、試行錯誤してパフォーマンスをテストし、オリンピックでのショーで求められる時間を飛べるようにした。

さらに重要な課題として、寒さがコントロール・システムに悪影響を及ぼさないように試行錯誤してコンピュータを調整した。大空に配置されたドローンは、本部にあるコンピュータと連携して動作する。最終的に、そのコンピュータはドローンが離陸する直前に、それぞれのバッテリーレベルやGPSの受信強度などに基づいて、大空での役割を割り振っている。1,218機の飛行をコントロールするのはたったの1人。的確に飛行に関する最終決断ができるように、天候や上空の飛行状況をモニタリングできる機器も現地に持ちこんでいる。

インテル社は、このようなプロジェクトを推進する人材を育成する「Intel® Teach プログラム」という「学びの創造」を長年進めてきている。その内容は「基礎的・基本的な知識・技能の習得にとどまらず、これらを活用して、仲間と共に試行錯誤して協調し、課題解決する力を育成すること」を目指した「協調型問題解決能力 collaborative problem solving」いわゆる「21世紀型スキル」の育成である。

このように他者との対話の中で、テクノロジー等のあらゆるものを駆使して、問題に対する解や新しい物事のやり方、考え方、まとめ方、さらに深い問いなど、私たち人類にとっての「新たな知識」を創出する「学び」こそが、日本がこれから追究していく「主体的・対話的で深い学び」となるのではないだろうか。

今こそ、躊躇することなく教育課程を社会に開き、あらゆる社会のリソースとのコラボレーションを創出し、テクノロジー等を駆使して、未来社会を見据えた「未来の学び」を創造する必要がある。

最後に、本年度ご指導いただいた東京女子体育大学 教授 田中洋一先生、同 教授 小林福太郎先生をはじめ、ご支援、ご協力をいただきました多くの皆様に感謝を申し上げます。

I 研究の概要

○研究主題

思いや考えを深める子の育成

～主体的・対話的で深い学びを通して～

○研究主題設定の理由

次世代を生きる子供たちが、成人して社会で活躍する頃には、生産年齢人口の減少、グローバル化の進展、絶え間ない技術革新などにより社会が加速度的に変化するであろう。そして、変化の影響があらゆる領域に及ぶ時代に直面すると予想される。現在においても人工知能（AI）の進化は著しく、すでに特定の分野では、人間のようにあるいは人間以上に能力を発揮できるレベルに達しているという。さらに、自ら思考する人工知能が開発されて、これまで人間だけができるものとされてきた創造的分野においても、その力が発揮され始めていることなどが報じられている。

平成29年3月には、新学習指導要領が公示された。次世代を担う子供たちが、前述のような変化を乗り越え、新しい未来を切り開いていくために必要な資質・能力を育むことが明示された。児童一人一人に、社会の変化に受け身で対応するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、自らの可能性を発揮し多様な他者と協働しながら、よりよい社会と幸福な人生を切り拓き、未来の創り手となるために必要な力を育てていくことの重要性が示されている。この改訂では、各教科の指導を通してどのような資質・能力の育成をねらいとするのが明確に示された。「知識及び技能」の習得と、「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養という、いわゆる資質・能力の3つの柱の育成である。そのためには、「どのように学ぶか」に着目して、学習の過程の質を高めていく学習・指導の改善・充実を図っていくことが重要とされる。

本校では、平成28年度から、「思いや考えを深める子の育成～主体的・対話的で深い学びを通して」を研究主題として、児童の学びの質や深まりを向上させ、思考力を育む指導をめざして授業改善に取り組んできた。その研究から、課題設定の重要性と課題解決に向けた学びの過程を転換する必要性が明らかとなった。児童が、自ら解決できる範囲を少し超えた課題に出会ったとき、「どうやったらいいのだろう」とつまずくことが、学びの始まりとなる。そのつまずきを克服するために、友達や教師、書籍、資料などと対話し、そこで得た知識や技能を使いながら課題を解決する。そのような学びの過程を通して、児童が思いや考えを深めていく姿が見えてきた。

また、平成28年12月の中央教育審議会答申では、「主体的・対話的で深い学び」という授業改善の視点が次のように示された。

①学ぶことに興味や関心をもち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもってねばり強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。

②子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。

③習得・活用・探求という学びの過程の中で、各教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

このことは、新学習指導要領の「解説 総則編 第3章第3節 教育課程の実施と学習評価」においても、同様に記されている。

今年度は、昨年度までに取り組んできた授業改善の工夫を、上記に示された「主体的・対話的で深い学び」の視点から改めて整理しながら、各教科等で更なる創意工夫のある授業づくりにつなげていきたいと考えた。

○本年度の取り組み

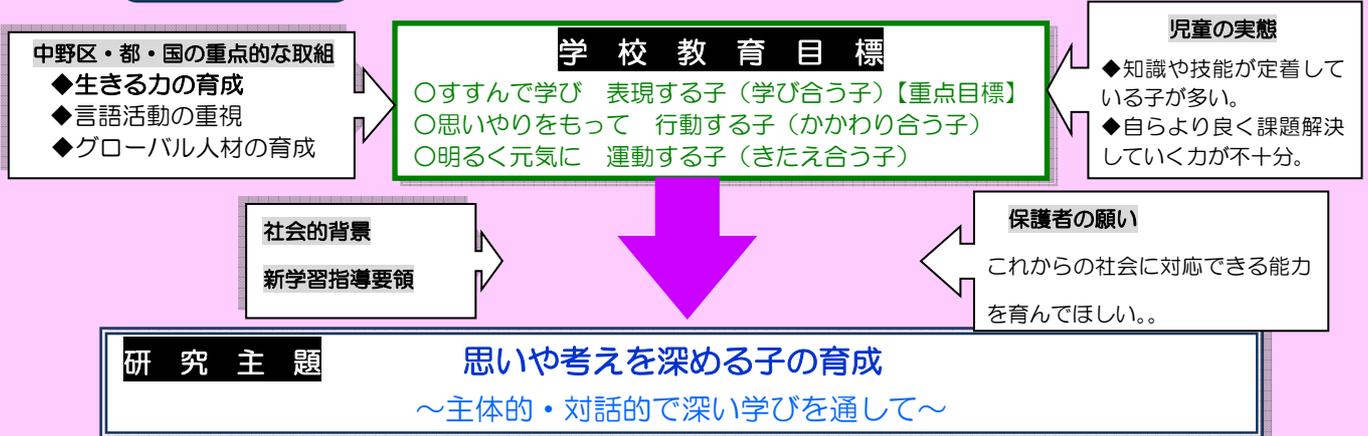
それぞれの教科等において、次の4つの視点で学習の過程を構成していく。

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">1 仲間と一緒に解きたい「問い」があり共有されていること（課題設定の工夫）<ul style="list-style-type: none">・各教科等の「見方・考え方」を働かせる必要性のあるもの。・多様な考えが出せるもの。2 対話が深まるよう、考えるヒントとなる「考える材料」があること（対話の質の向上）<ul style="list-style-type: none">・各教科等の「見方・考え方」を働かせて得た「知識・技能」。・学習経験や生活経験の想起。・ICT 機器や思考ツール等の活用。3 深い知識を構成するために十分な「時間」が確保されていること（対話の量の確保）<ul style="list-style-type: none">・他者との交流により、情報の比較や分類、関係付け、情報の共有化を図る時間・課題解決の核となる情報を判断したり、考えを見直したりする時間。4 互いに考えを共有し、比較・俯瞰することで学びを深めたり、さらなる「問い」を生んだりしていくこと（主体的な学びの継続）<ul style="list-style-type: none">・多様な考えを肯定的に受け止める。・学習を通して、分かったことやできたこと、有効だった方法や解決できた要因等を自覚する。 |
|--|

以上のような視点によって構成された授業を繰り返し行っていくことで、「思いや考えを深める子」の育成をめざす。



研究構想図

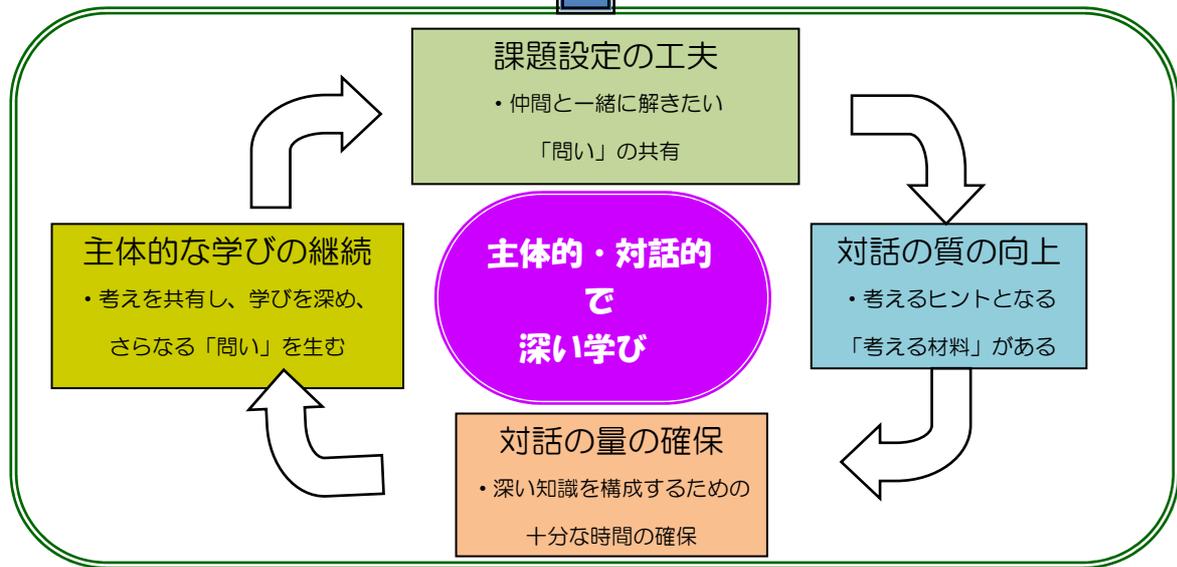


研究仮説

学習課題の設定やその解決に向けた主体的・対話的な学びの過程を工夫することで、自分の考えを形成したり表現したりしながら、思いや考えを深めさせることができるであろう。

思いや考えを深める子

研究の内容



<授業改善の基盤として>

- ・どんな知識・技能を使って、どう思考させるのか、単元や学習材の分析。
- ・各教科等における「見方・考え方」（物事を捉える視点や考え方）の整理。
- ・ICT 機器などを使った情報活用能力の育成。
- ・対話するスキルを高める取り組み。

○研究経過

| 日程 | 形態 | 内容 |
|------------|-------------------------|--|
| 4月 6日(金) | 研究全体会 | 今年度の研究について |
| 6月 29日(木) | 研究授業① | 低学年分科会研究授業・協議会 第2学年 授業者 渡邊 朱実 主任教諭 国語科授業 「こえに出してたのしもう」 |
| 7月 6日(木) | 研究授業② | 低学年分科会研究授業・協議会 第1学年 授業者 野上 悠 教諭 国語科授業 「たからものを おしえよう」 講師：田中洋一 先生 |
| 8月 31日(水) | 研究全体会 | 研究主題と視点についての協議 |
| 9月 12日(火) | 研究授業③ | 高学年分科会研究授業・協議会 第5学年 授業者 岡田 綾 主幹教諭 道徳の時間授業 「すれちがい」 |
| 9月 14日(木) | 研究授業④ | 高学年分科会研究授業・協議会 第6学年 授業者 田尻 佑樹 教諭 道徳の時間授業 「ぼくの名前を呼んで」 講師：田中洋一 先生 |
| 11月 21日(火) | 研究授業⑤ | 中学年分科会研究授業・協議会 第3学年 授業者 見米 美喜子 主任教諭 阿久津 淳子 主任教諭 川西 雄輝 教諭 総合的な学習の時間 授業 「レッツ！MIDO街つく」 講師：田中洋一 先生 |
| 12月 20日(水) | 東京都ICT活用公開授業・研究授業⑥ | 中学年分科会研究授業・協議会 第6学年 授業者 安藤 亨 主任教諭 体育科授業 「器械運動 跳び箱運動」 |
| 1月 19日(金) | 中野区教育委員会「学校教育向上授業」研究発表会 | 全学級授業公開 |
| 1月 31日(水) | 研究推進委員会 | 今年度の研究のまとめと次年度に向けて |

II 研究の実践

低学年分科会

研究推進委員 ○

吉原 あつ子

野上 悠

三井田 学

○ 渡邊 朱実

片山 奈々

瀬口 有美子

北山 広美

1 A授業指導案

第1学年 国語科学習指導案

「たからものを おしえよう」

2 B授業指導案

第2学年 国語科学習指導案

「こえに出して たのしもう」

低学年分科会 A 授業（第 1 学年）

国語科学習指導案

平成 29 年 7 月 6 日(木) 第 5 校時

1 年 3 組 児童数 30 名

授業者 教諭 野上 悠

1 単元名

教材名 「たからものを おしえよう」(光村図書 1 年)

2 単元の目標

◎自分の大切なものについて、姿勢や話し方に注意して、順序立てて友達に話すことができる。

○相手が伝えたいことを興味をもって意欲的に聞くことができる。

・事物の内容や自分の経験を伝える言葉の働きを理解することができる。

3 単元の評価規準

| 国語への関心・意欲・態度 | 読む能力 | 言語についての知識・理解・技能 |
|---------------------------------|--|--------------------------------------|
| ・説明の方法を知り、「たからもの」を友達に教えようとしている。 | ・説明のために必要な事柄を集め、順序立てて説明している。 ・二人組で相談するとき、グループで発表するとき、それぞれに適した声の大きさや言葉遣いで話している。 ・相手が伝えようとしていることを、興味をもって聞いている。 | ・言葉には、事物の内容や自分の経験を伝える働きがあることに気づいている。 |

4 単元について

本単元では、自分の宝物について、友達に分かりやすく教えようという目的意識をもたせることが非常に重要である。実物を見ることができ、イメージをしやすい宝物は、友達に紹介したい、友達の宝物を知りたいという意欲を引き出す題材としての良さがある。また、教師が自分自身の宝物の話をして、モデルを提示することも効果的である。その宝物のどこが大切なのか、それはなぜなのか、ということが児童によく分かるように、話し方に気をつけるだけでなく話す内容をしっかり掘り下げておく必要がある。また、聞き手がそっぽを向いたり騒いだりして聞いてくれないと、話し手の意欲がそがれてしまう。聞き方の大切さを実感させ、学習経験として蓄積させることにも意を配りたい。

5 児童の学習経験

「わけを はなそう」で、対話を通じて理由を伝える話し方を学んでいる。また、「おもいだして はなそう」では、自分の体験をグループの前で対話的に話す経験をした。それを受けて、本単元では、対話的な取材活動を行い、グループの前で宝物とその理由について発表・交流する。そして、この後の九月教材「なつやすみのことを はなそう」では、体験を自分で思い出し、順序立てて三文程度で話すことにつながる。なお、事物の内容と自分の経験とを交えて話すのは初めての活動なので、子供たちの意欲を引き出しつつ指導していきたい。

学級では、朝の会の際「一言スピーチ」を行っている。定型文を設定し、お題に沿った一文で発表をするというもので、そこから質問をして深めるという活動を少しずつ取り入れている。友達の発表を意識して聞く姿勢がだいぶ定着してきたように感じる。

6 研究主題の捉えと手立て

研究主題 思いや考えを深める子の育成

目指す児童像（深い学びの姿）

深い学びを目指すために本単元では質問に重きを置き指導をした。個で完結してしまうのではなく、友達との対話の中で、自分で気が付かなかった点を他者に引き出してもらい、自分の考えをさらに深めていくという学習につなげる。

低学年のうちに話し合いの型を身に付けておくことが、中学年高学年の深い学びにつながると考える。質問をするといった基礎的・基本的な力を身に付けさせることが今後の学習において重要となると考え、指導した。質問をすることで、見ただけでは分からない情報を受け取ることができるということを知り、対話をする、質問をすることのよさを実感させたい。聞いたことでより情報が深まり、聞き手としても「話し手の事を理解することができる」という点の良さがあることに気付かせたい。

（1）主体的学びのために

○宝物という題材

本単元で扱う宝物は、話題にしたいものを想起し、児童の興味や関心の度合い、伝えたい思いの強さを手掛かりにして一つに選ばれたものであり、児童が話したい、聞きたいと自然に感じられるものである。さらに実際に宝物を持つことで、話し手は話す意欲、聞き手は聞く意欲がわき、低学年ならではの主体性、のびのびとした発想が生まれると考える。

（2）対話的学びのために

○ペア活動

この時期の児童は、友達の前で発表することにはあまり慣れていない。そこで、まず隣の席の児童と二人で話すことで、話すこと自体に慣れさせるとともに、話し方や聞き方、言葉遣いや声の大きさなどの意識をさせたい。この段階を経ることで、グループの友達の前での発表にもスムーズに取り組みやすくなる。

○しつもんすいっち

本単元では発言を受けて話をつなぐための手立てとして、「しつもんすいっち」を取り入れた。児童の発達段階に合わせ、「しつもんすいっち」を活用することで、相手の発言を受けて言葉を返すこと、様々な視点から質問をすることができるようにした。また、前時に筆箱を用いて「しつもんすいっち」の使い方を練習することで、質問の仕方を身に付けてから本時の宝物の学習へ入ることで、対話の活性化をねらった。

7 単元計画(全4時間)

| 次 | 時 | ねらい(○)と主な学習活動(●) | 手立て(*)研究主題に迫る手立て(☆) 期待される児童の姿□ 評価・評価方法(◇) |
|------------------|---|--|--|
| 第一次 単元の見直しをもつ | 1 | <p>○学習の見直しを立てる。</p> <p>●自分が大切にしているものを思い浮かべる。</p> <p>●定型文で一文作る。</p> <p>●教師による「たからもの」についての発表を聞き、質問をする。</p> | <p>*「わたしのたからものは～です。」という定型文を用いて一文を書けるよう指導する。</p> <p>◇自分の伝えたい宝物について一文でまとめられている。(学習カード)</p> <p>*教師が紹介した宝物について、もっと知りたいことを質問させながら気楽にやり取りをして発表の仕方を理解させる。</p> <div data-bbox="906 734 1465 958" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・誰にもらったのですか。 ・どこで見つけたのですか。 ・いつからもっているのですか。 ・どんなところが好きなのですか。 </div> <p>☆質問をすることで、より詳しく宝物について知ることができたことに気付かせ、質問の重要性を実感させる。</p> |
| 第二次 話す内容を考える | 2 | <p>○質問の仕方を学ぶ。</p> <p>●「しつもんすいっち」を使い、質問の仕方を学ぶ。</p> | <p>*「しつもんすいっち」を使いながら項目ごとに確認させる。</p> <div data-bbox="922 1267 1469 2063" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・いつ いつ買ってもらったのですか。 ・どこ どこで買ってもらったのですか。 どこが好きなんですか。 ・だれ 誰に買ってもらったのですか。 誰にもらったのですか。 ・なに、なん (これは) なんですか。 何個ありますか。 ・なんで、どうして どうして宝物なのですか。 なんでこれがついているのですか。 ・どうやって、 どうやって使うのですか。 </div> |

| | | | |
|-----------------------|--|---|---|
| | | <p>●筆箱を用いたペア学習で、質問の仕方、答え方の言い方を学ぶ。</p> | <p>*どの項目でどのような質問がありうるか、一斉指導で確認させる。</p> <p>☆児童から出てきた質問を5W1Hの観点で整理し、「しつもんすいっち」を用いた質問の仕方を指導する。</p> <p>◇筆箱について進んで質問し、友達と話したり聞いたりしようとしている。(観察・学習カード)</p> |
| <p>第三次 発表をする。</p> | <p>3</p> <p>○宝物についてわかりやすく伝える。詳しく知るために質問をする。</p> <p>●グループでの発表の仕方を確認する。</p> <p>●グループで話す人、聞く人の立場を交代しながら、活動を通して考えを深める。</p> <p>4</p> <p>○発表をして、感想を伝え合う。</p> <p>●グループを変え、たくさんの友達の宝物について伝え合う。</p> <p>●自分の宝物について、三文程度で説明をする。</p> | <p>*話すとき・聞くときに気を付けることを想起させる。(話し方名人・聞き方名人の活用)</p> <p>*声の大きさ、言葉遣いについて適しているのはどのようなものか確認させる。</p> <p>☆質問して分かったことを振り返り、質問することの良さに気付かせる。</p> <p>◇宝物について話し、グループ活動に適した声の大きさや言葉遣いに気を付けている。(観察・学習カード)</p> <p>◇友達が伝えようとしていることに興味をもって聞き、質問や感想を返している。(観察・学習カード)</p> <div data-bbox="890 1171 1490 1341" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>もっとたくさんの友達の宝物について知りたい。 違う人にも自分の宝物の話をしたい。</p> </div> <p>☆前時の活動を踏まえ、質問から深まった内容を盛り込み説明させる。</p> <p>◇宝物についてより詳しく伝えることができるように、三文程度で話している。(観察・学習カード)</p> <p>◇友達が伝えようとしていることに興味をもって聞き、質問や感想を返している。(観察・学習カード)</p> | |

8 本時 (3/4)

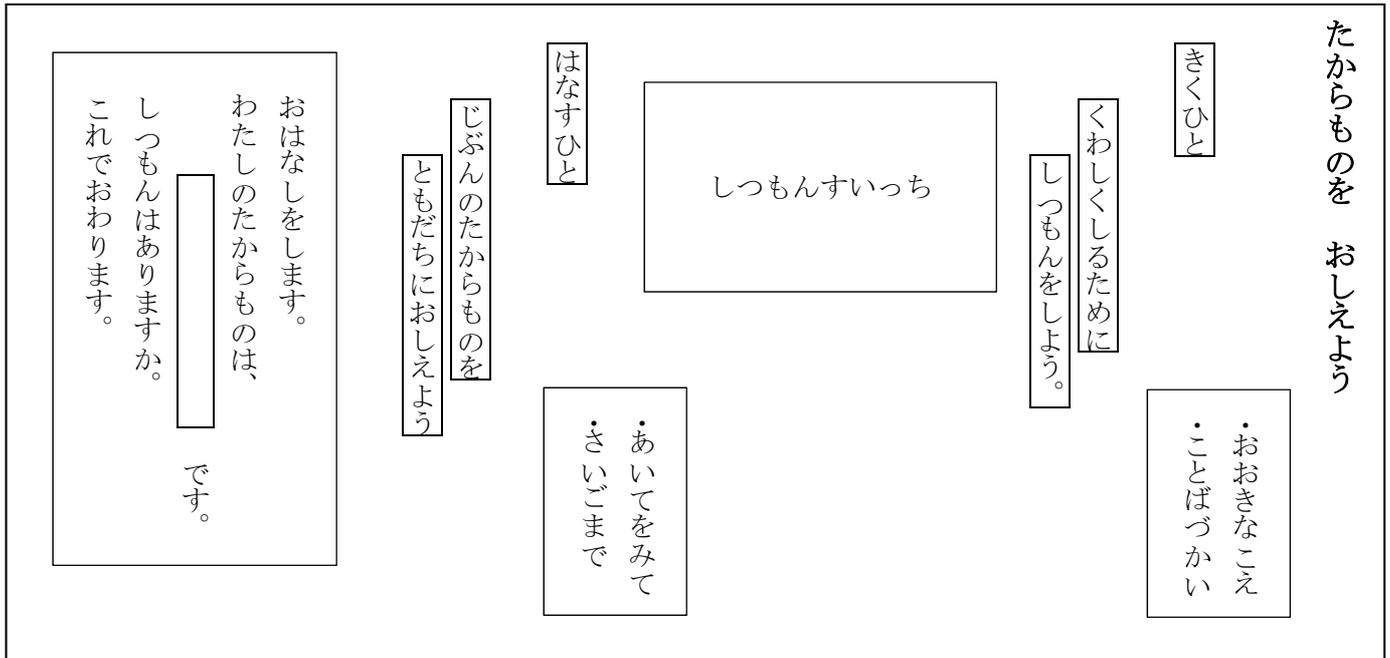
(1) 目標

- ・友達の発表に興味をもって聞き、質問をして深めることができる。
- ・宝物とそれにまつわる経験などについて話し、声の大きさや言葉遣いに気を付けて話すことができる。

(2) 展開

| 時間 | 学習内容・学習活動 | 手立て(*)研究主題に迫る手立て(☆) 評価・評価方法(◇) |
|------------|---|---|
| 導入 5分 | <ul style="list-style-type: none"> ●前時の学習を振り返る。 ●本時の学習内容を知り、学習課題をつかむ。 | <ul style="list-style-type: none"> *前時に「しつもんすいっち」を使って学習したことを想起させる。 *宝物について発表し合い、質問したり感想を伝えたりする活動であることを確かめる。 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・くわしくするためにしつもんをしよう。 ・じぶんのたからものをもとだちにおしえよう。 |
| 展開 30分 | <ul style="list-style-type: none"> ●宝物についてグループごとに交流する。 ●質問をして分かったことを発表する。 | <ul style="list-style-type: none"> ☆前時までの「しつもんすいっち」の使い方を確認する。 ☆「しつもんすいっち」の新たなスイッチに気づかせ、質問の項目にないものでも質問するよう伝える。 *上手な話し方、聞き方のポイントを確認し、黒板に掲示する。 *グループでの話し合いの方法、決まりの確認をする。 ☆役割を交替しながら、話し手と聞き手の両方の立場で交流することを伝える。 ☆「しつもんすいっち」を活用しながら、交流を深めさせる。 ◇宝物について適切な声の大きさや言葉遣いで話し、相手の質問に答えている。(観察) ◇友達の宝物について興味を持って聞き、質問をして深めることができる。(観察) |
| まとめ 10分 | <ul style="list-style-type: none"> ●学習のまとめをする。 | <ul style="list-style-type: none"> *質問して分かったことを振り返り、質問することの良さに気づかせる。 *学習計画カードで本時の振り返りを行う。 ◇自分の宝物を友達に伝えている。(学習計画カード) ◇詳しく知るために質問している。(学習計画カード) |

(3) 板書計画



<協議会記録>

分科会提案

○視点1

「たからものをおしえよう」という課題設定は、だれもが話したい、聞きたいという意欲をもつために有効であったか。

○視点2

「しつもんすいっち」は、相手の発言を受けて話をつなぐための手立てとして有効であったか。

授業者自評

- ・1年3組は他の2クラスと比較して枠にはまってしまう傾向があったため、今回の「しつもんすいっち」が枠をつくってしまうのではないかと心配だった。
- ・2年生、さらにその上の学年で深い学びができる児童を育てるために、今必要なことは何か知りたい。

協議 ●授業者・分科会の意見 ○参観者の意見

【視点1について】

- 「深い学びの姿」というものをどのように捉えていたか。どんな姿を目指していたか。
- 子供たち同士で質問をして様々な事を聞き出す。
- 本当は「宝物について聞いてみよう」が課題だったのだと思った。
- 入門期なので1年生の国語の特性がある。導入で、先生の宝物を見せて質問の良さを感じさせることで、課題設定できたのかもしれない。
- 「聞きたい!」と思う意欲をもたせる上では有効だったと思う。

【視点2について】

- いい手立てだったと思う。押したくなる。もっとスイッチを絞っていても良かったのでは。
- 子供たちのスイッチへの意欲は高かった。3つのスイッチから始めるのも良かったかもしれない。ただ「どう

して」などはなかなか子供たちから質問が出にくかった。

●子供発信でスイッチを作り上げていくのは、いい手立てなのではないかと話を聞いていて思った。スイッチなしで自由に質問をさせても子供たちは出来たためよかったのかもしれない。

○本時ではもうスイッチがなしでもよかったのかもしれない。紹介者からもう少し説明をしてから質問に入っても良かった。

○先生が与えたスイッチを超えていくような質問が出ると深い学びになったのではないか。スイッチなしでやってみると、スイッチと質問をつなげる役目を先生がするといいのでは。

●「もらった時どんな気持ちになったのですか。」という気持ちについての質問が出たため取り上げた。スイッチなしでも是非やってみよう。

【その他】

○低学年の入門機に深い学びは難しいのか、それともそうじゃないのか。習得メインと捉えるか。田中先生に教えていただきたい。

●深めるためのツールとして質問をするため、今後もいろいろな事でスイッチを使えそうだと感じた。

<指導・講評>

東京女子体育大学教授

田中 洋一 先生

- ・新学習指導要領は基本的には変わっていない。文部科学省のキャッチコピーに流されず、思考力・判断力を引き出すことを意識して指導していく。研究主題にある主体的というのは「子供がしっかり考え、考えをもつ」ということ。答えを出すことが主体的なのではない。また発問では、知識技能を確かめる発問なのか、思考判断を確かめる発問なのか、教員が意識することが大切である。知識技能、思考判断、関心意欲態度の三要素。
- ・1年生は1年生でもっと工夫した授業が考えられた。「自分にとってこんなに大切なものなんだ」という気持ちや感情の説明が欲しかったが、スイッチがそれを妨害していた。対話の基礎基本の定着には良いが、思考判断の仕掛けにはならない。低学年は全員できなくてもまず難しいことを体験させることが、次の段階へのステップとして大事。
- ・自分のエピソードを語る単元だが、あえて聞く側を育てる単元にしたのは良かった。教科書通りにやるより聞き手側が育つ良い単元ではあったが、自分の思いを語る活動を補う必要がある。

<成果と課題>

(1) 主体的な学習について

- ・本時は「宝物についてきてみよう」という聞き手に焦点を当てた課題設定をするべきだった。
- ・たからものという題材は子供たちの聞きたいという意欲をもたせる上では有効だった。
- ・話し手側の児童に気持ちの説明をさせることで、子供がしっかりと考えをもつことができたと考えられる。

(2) 対話的な学習について

- ・「しつもんすいっち」は、対話の基礎基本を定着させるためには有効である。その一方で決まった質問に固執してしまうため、質の向上にはならない。
- ・「どの質問をするとよいか」「どの質問が大切か」を考えさせることが、思考判断のための発問であり、自分で考えて質問を組み立てていく対話力を育てることに繋がるということが分かった。

低学年分科会 B 授業（第 2 学年）

国語科学習指導案

平成 29 年 7 月 20 日（水）3 校時

2 年 1 組 授業者 渡邊 朱実

1 単元名 こえに出してたのしもう

教材名 「おおきくなあれ」（光村 2 年）他 詩 3 編

2 単元の目標

○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて詩を音読することができる。

○よりよい音読になるように工夫することができる。

3 研究主題に迫る手立て

「主体的な学び」

・「3 人で詩を音読して発表しよう」という学習課題を設定するとともに、教科書教材の外に 3 編の詩を用意する。それらの詩をそれぞれ 3 人で分担して読む形にすることで、友達と一緒に楽しみながら取り組める活動にする。

「対話的な学び」

・ICT を活用して音読の様子を撮影したものを、音読の改善点を話し合う資料にさせる。
・自分たちの音読のよい点と改善点に分けて表に整理していくことで、話し合いの内容を視覚的に比較しながら、練習に生かせるようにする。

「深い学び」

・客観的に自分たちの音読の課題を見つけ、改善策を考えて実行しながら音読の質を高めていけるようにする。

4 本時（3/3）

（1）目標

自分たちの音読をふり返り、よりよい音読にすることができる。

（2）展開

| 学習内容・学習活動 | 手だて（*） 研究主題に迫る手立て（☆） |
|--|---|
| ●学習課題をつかむ | *音読のときに大切にしてきたこと確認する。 |
| 音読はっぴょう会にむけて、もっとよい音読にしよう。 | |
| ●音読の様子を撮影した動画を見て、自分たちのグループのよかった点と悪かった点を見つける。 | ☆前時の終わりに撮影した映像をグループごとにタブレット端末で見られるようにする。 |
| ●改善策を話し合う。 | ☆話し合ったことを整理するためのシートを用意する。 *手がかりとなる改善方法を示す。 |

| | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ●話し合ったことをもとに、音読の練習をする。 ●音読がよくなっているか、話し合う。 | <p>☆練習の成果を撮影し、前時の音読と比べられるようにする。</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ●学習を振り返る。 | <p>☆自分たちの音読を客観的に捉えて練習したことで、音読がどう変わったかについて考えさせる。</p> |
| <p>評価：改善点に気をつけながら、工夫して音読することで、自分たちの音読がよりよくなったことに気付くことができたか。(観察 学習シート 振り返りカード)</p> | |

5 板書計画

こえに出してたのしもう
音読はっぴょう会にむけて、もつとよい音読にしよう。

大きくこえ
はつきりと
リズムにのって
ことばのかんじをだして

いきを
ぜんぶ
こえにして

よい
しせい

口を
うごかさう

ここは
こう読もうと
考えて

学習シート

学習のじゅんじよ

- ①よいところ、わるいところを話しあう。
- ②どうしたらよくなるか話しあう。
- ③れんしゅうする。
- ④カメラでうつす。
- ⑤前とくらべる。

<成果と課題>

(1) 主体的な学習について

- ・教科書教材に加えて、繰り返しのリズムや言葉の響きを楽しめる詩を3編選んで提示した。友だちと声を合わせる心地よさがあり、音読発表会をしようという学習課題に向けて意欲的に取り組めた。
- ・3人組で音読が楽しめるように、分担読み用の台本を作り提示した。児童は、すぐにそれぞれの分担を交代しながら読み始め、役割を決めていた。
- ・練習の様子をタブレットで動画撮影したことで、自分たちの音読の様子を客観的に見ることができ、「どこを直したいのか」次の課題を自分たちで見つけることができた。

(2) 対話的な学習について

- ・撮影した動画を見ながら、良いところと直したいところを分けてシートに書かせる活動を設定した。自分たちの音読を動画と音声で振り返ることができたことは、話し合いのために大変有効であった。児童が課題を自分たちで見つけ、次に生かしていくという姿は、ICT機器がもたらした飛躍的な効果であった。
- ・タブレットでの撮影を自分たちでできるようになると、さらに対話を深められるようになると考える。

中学年分科会

研究推進委員 ○

- 見米 美喜子
阿久津 淳子
川西 雄輝
- 安藤 亨
- 只野 香苗
佐藤 ひろみ

1 A授業指導案

第3学年 総合的な学習の時間指導案

「レッツ！MIDO街っく」

中学年分科会 A 授業（第3学年）

総合的な学習の時間学習指導案

平成29年11月21日(火) 第5校時

3年生 児童数 87名

授業者 Aグループ 主任教諭 見米 美喜子

Bグループ 主任教諭 阿久津 淳子

Cグループ 教諭 川西 雄輝

1 単元名

「レッツ!MIDO街っく」

2 単元の目標

○商店街を取材する学習を通して、自分が生活している地域のよさを見付けることを通し、町への愛着を深め、自分たちにできることを考えたり行動したりしようとする態度を育てる。

3 単元の評価規準

| ア 学習方法に関すること | イ 自分自身に関すること | ウ 他者や社会との関わりに関すること |
|--|---|---|
| ①これまでに学んだこととつなげて、自分たちにできる活動について考え、課題を設定している。 ②取材活動の方法や手順を考え、計画を立てている。 ③インタビューをしたり写真撮影をしたりして課題に必要な情報を集めている。 ④集めた情報を整理し、店の特徴やよさを見付けている。 ⑤相手や目的に応じて、伝えたいことを分かりやすく表現している。 ⑥学習の進め方を振り返り、今後の活動に生かそうとしている。 | ①商店街の人にすすんで関わり、質問をしたり、相手の話を聞いたりして交流を深めている。 ②他者と協力して話し合い、考えを修正したり深めたりしている。 ③自分のよさや頑張りを認めている。 ④地域の商店街を守っていくために、自分にできることを考えている。 | ①取材活動を通して情報を集めたり、友達の考えを受け入れたりしている。 ②友達や地域の人々と関わりながら課題を解決しようとしている。 ③学習を通して考えたことを、地域の人や他学年の児童に発信している。 |

4 単元について

近年の社会問題の一つとして、大型店の隆盛や高齢化、後継者問題などが起因する、商店街の衰退がある。いわゆる「シャッター通り」問題である。しかし、本校を取り巻く地域には、野方商店街、沼袋商店街と、今も人々の生活を支える商店街が存在する。各商店街の努力と、地域の人々の願いがあるからこそその貴重な地域資源だと考えられる。

現行の総合的な学習の時間学習指導要領解説には学習対象の例として、地域や学校の特色に応じた課題の一つとして「商店街の再生に向け努力する人々と地域社会」が挙げられている。3年生児童にとって、社会科学習内容との関連を考えた上でも【地域商店街】は重要な学習対象である。低学年の生活科学習でも町探検を

行い類似するような活動をするが、3年生では、教科で学んだ知識を生かして、さらに多面的な視点で自分たちが住む地域について見て、思いや考えを深めていくことが大切である。上述したように、本校の地域には貴重な商店街がある。このことを児童が地域の特色として、誇りとして見つめ直し、「自分たちも地域に貢献したい」という思いを育ませる活動を経験させたいと考えた。

平成29年3月公示の新学習指導要領には横断的・総合的な学習の授業作りが掲げられている。本校の3年生児童は、毎年、図画工作科学習単元「街角アート」で、野方商店街に作品を展示する取り組みを続けているので、社会科、総合的な学習の時間に加え、図画工作科とも横断的に地域についての学習を扱うことで、さらに深い学びが実現できるのではないかと考え、本単元を設定した。

5 児童の学習経験

児童らは、今年度から総合的な学習の時間（みどりのタイム）の学習活動を始めた。最初の活動として、学校プールから採集したヤゴを育てトンボへと羽化させる飼育活動を通し、トンボについての課題設定を行い、探究活動を行った。総合的な学習の時間は、自分たちで課題を設定し協力して学びを深めていく学習だと、児童らは理解している。本単元は、総合的な学習の時間の二つ目の活動となる。

本単元と関連する学習内容としては二つ挙げられる。まず一つは、社会科の学習単元「店の仕事」である。買い物調べを行い、スーパーマーケットをよく使用しながら、自分たちの地域では商店街もよく利用していることが分かった。商店街の良さ、商店街の工夫について考える学習を行った。もう一つは国語科の学習単元「伝えよう学校生活」で、インタビューの仕方を学び取材活動を行った経験である。

6 研究主題に迫るための手立て

(1) 主体的な学びのために

○課題設定の工夫

実際に児童が普段生活し、利用している地域商店街を学習対象とすることで、意欲が高まり、実感の伴った学習活動になると考えた。また大きな学習課題を、自分たちの手で商店街を宣伝したり盛り上げたりすることを設定し、児童自らが地域貢献することで自己有用感を味わわせたい。

人気テレビ番組名を単元名に取り入れて「自分たちが宣伝するぞ」という意欲を高めることをねらった。また、児童にとって魅力ある課題として、店の良さを紹介するCMソングを作り学習発表会で発表するという活動を設定した。

○課題別グループ編成の工夫

児童の様々な興味関心に寄り添い知的好奇心を満足させられるよう、多くの取材対象店舗を設定したい思いがあった。単元設定に当たり、第二次の活動として野方商店街への協力を依頼し、学習活動へのご理解をいただきご協力いただいた店舗は18店である。児童に、取材希望する店のアンケートを取り、一人一人の希望で課題別グループを設定した。

| Aグループ | | Bグループ、 | | Cグループ | |
|----------|--------|--------|-------|-------------|--------|
| ウェルカム | 【衣料品】 | オリーヴ | 【花】 | カフェリーズ | 【カフェ】 |
| インテリアリーフ | 【衣料品】 | ロッカロッカ | 【花】 | フィローズマーケット | 【衣料品店】 |
| ひなさく堂 | 【大判焼き】 | 旬 | 【鮮魚】 | マルシェ | 【果物】 |
| 野方不動産 | 【不動産】 | 中島精肉店 | 【精肉】 | ミスズベーカーリー | 【パン】 |
| パレットプラザ | 【写真】 | ハレの日 | 【カフェ】 | カフェドルチェ | 【カフェ】 |
| 西武薬局 | 【調剤薬局】 | 光進堂 | 【和菓子】 | バーバーショップスズキ | 【床屋】 |

※A、B、Cグループは、店の場所を考慮して分けている。

○体験活動の充実

直に目で見て、人と関わることで対象教材となる地域商店街への思いが深まり、主体的な活動になると考え、実際に地域に出かける機会を多く設けた。また各店への取材活動も、1回で済まらずに、活動を2回に分け、回数を重ねられるよう工夫した。

(2) 対話的な学びのために

○思考ツールの工夫

平成29年3月公示の新学習指導要領、総合的な学習の時間解説文中に、『対話的な学びを確かに実現するため、「考えるための技法」を意識的に使っていく。情報を可視化し、操作化することで、思考を広げ深められる。』とある。

考えるための技法として、考えを広げるためにはイメージマップ、また、集めた情報を整理するためには、KJ法、マトリックス、メリット・デメリット、ピラミッドチャート、座標軸、ランキングなどの方法が考えられる。様々なものがあるが、児童の発達段階を考慮し、まずはKJ法を取り入れることとした。これにより、児童の考えを可視化したり操作したりすることができ、より児童同士の考えが伝わりやすくなり、児童の対話が生まれ思考が深まると考えた。

(3) 深い学びのために

○他教科や既習事項との関連を意識した学習

社会科、国語科の既習事項を本単元の活動に生かすことで、より深く課題について考えたり、取材したりできると考えた。また、本単元の取材をもとに作る各店のイメージ図を、図画工作科の作品作りにも生かしていきたいと考えている。

○振り返りカード（ポートフォリオ）

活動の節目に、自分の考えや気づきの記録を蓄積していく。その記録の蓄積が、次の課題設定や、活動全体を振り返る際に重要な役割を果たすと考えた。単元全体を通して、地域への思いや考えが深まっていくことをめざしたい。

7 単元計画（全30時間）

| 次 | 時 | ねらい(○)と主な学習活動(●) | 手立て(*) 研究主題に迫る手立て(☆) 評価・評価方法(◇) |
|---|-------------|---|--|
| 次 商 街 の よ さ を さ が そ う | 1 ↳ 4 | ○地域を支える商店街の特徴や雰囲気、工夫を知る。 ●学習の目的を知る。 ●野方商店街で商店街探検をする。 ●野方商店街の良さについて考える。 | ☆教科横断的な活動を設定する。 【→社会科『店のしごと』】 ◇地域の商店街を守っていくために、自分にできることを考えている。 |

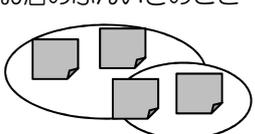
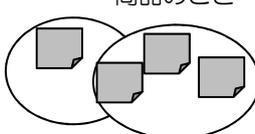
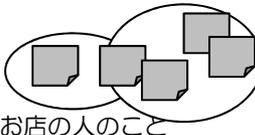
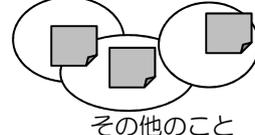
| | | | |
|---|-----------------------|--|---|
| 二次 それぞれのお店のよさをさがして、地いきの商店街をPRしよう | 5 | ○商店街が減ってきている問題について知る。 | *現代社会の問題点を扱った動画教材を使用する。 |
| | 私たちの力でまちの商店街の良さをPRしよう | | |
| 1 3 本時 1 4 1 5 2 5 | 6 | ○自分たちができることを考える。 ・CMソング作り ・作品作り | ◇これまでに学んだこととつなげて、自分たちにできる活動について考え課題を設定している。 (様子観察、活動記録カード) |
| | 7 | ○興味をもった商店について取材し、各商店の良さに気付く。(野方商店街) | ☆教科横断的な活動を設定する。【→図画工作科『街角アート』】 *野方商店街との連携を図る。 ☆取材希望店のアンケートを取り、課題グループを構成する。 ☆体験活動を繰り返し設定する。 ◇取材活動の方法や手順を考え、計画を立てている。 (様子観察、活動記録カード) |
| 1 3 本時 1 4 1 5 2 5 | 1 3 | ●グループ作りをする。 ●1回目の取材をする。 ●2回目の取材をする。 | ◇インタビューをしたり写真撮影をしたりして課題に必要な情報を集めている。 (様子観察、活動記録カード) |
| | 1 4 | ○取材内容をまとめ、情報図を作る。 | ◇商店街の人にすすんで関わり、質問をしたり相手の話を聞いたりして交流を深めている。 (様子観察、活動記録カード) |
| 1 3 本時 1 4 1 5 2 5 | 1 4 | ○取材内容をまとめ、情報図を作る。 | ◇友達や地域の人々と関わりながら課題を解決しようとしている。 (様子観察) |
| | 1 5 | ○各商店の良さを伝える。 ●各商店の良さを紹介するCMソング作りをする。 ●学習発表会で全校の子供たちや地域の人たちに商店街の良さをCMソングで伝える。 | ◇取材活動を通して情報を集めたり、友達の考えを受け入れたりしている。 (様子観察) ☆イメージ図作成の必要性を伝え、情報の整理の仕方を指導する。(KJ法) ◇集めた情報を整理し、店の特徴やよさを見付けている。 (様子観察、活動記録カード) |
| 1 3 本時 1 4 1 5 2 5 | 1 5 | ○各商店の良さを伝える。 ●各商店の良さを紹介するCMソング作りをする。 ●学習発表会で全校の子供たちや地域の人たちに商店街の良さをCMソングで伝える。 | ◇他者と協力して話し合い、考えを修正したり深めたりしている。 (様子観察、活動記録カード) |
| | 2 5 | ○各商店の良さを伝える。 ●各商店の良さを紹介するCMソング作りをする。 ●学習発表会で全校の子供たちや地域の人たちに商店街の良さをCMソングで伝える。 | ◇学習を通して考えたことを、地域の人や他学年の児童に発信している。 (様子観察) ◇相手や目的に応じて、伝えたいことを分かりやすく表現している。 (様子観察、活動記録カード) |
| 【図画工作科『街角アート』】 ・各商店に飾る作品作りをする。 ・各商店に作品を展示していただく。 | | | |
| 二次 もっとできることを考えよう | 2 6 | ○地域にある他の商店街について考え、さらに自分たちができることを考える。 (沼袋商店街) ・作品展示 ・ポスター作り 等 | ☆沼袋商店街との連携を図る。 ◇これまでに学んだこととつなげて、自分たちにできる活動について考え行動している。 (様子観察) ◇学習の進め方を振り返り、今後の活動に生かそうとしている。 (様子観察・活動記録カード) |

8 本時

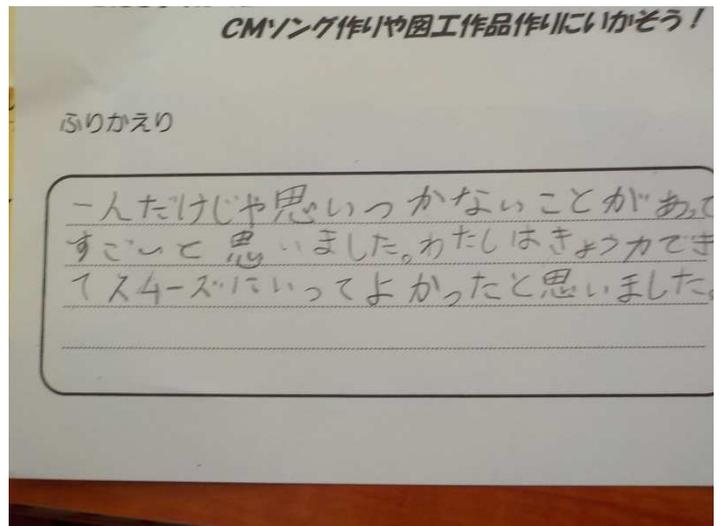
(1) 目標 (14/30)

お店の魅力を伝えるために、取材してきたことを基に友達とかかわりながら情報を整理することができる。

(2) 展開

| 時間 | 学習内容・学習活動 | 手立て (*) 研究主題に迫る手立て (☆) 評価・評価方法 (◇) |
|--------------|--|---|
| 導入 10分 | <ul style="list-style-type: none"> ●前時までの学習を振り返り、今日の学習活動を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・2回の取材を振り返り、単元全体のどこに自分たちがいるのかを確認する。 ・CMソングや図工作品を作りやすくできるよう、取材で分かったお店の魅力をグループでまとめる、今日の活動内容を確認する。 | ☆活動の見通しがもてるよう、活動ロードマップを掲示する。 |
| 展開 I 20分 | <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">お店の情報を整理して、まとめよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報のまとめ方を知る。 ●グループで情報図をまとめる。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 一人一人の情報カードを出し、話し合いながら分類をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・前時までに一人一人が書いていた情報カードを用いる ・カードを【店の雰囲気】【商品】【人】【その他】の4領域に分類していく。 (2) 類似するカードグループにキーワードをつける。 <ul style="list-style-type: none"> ・類似カードをまとめてグループを作り、線で囲む。 ・それぞれのグループにキーワードを書き入れる。 <div data-bbox="373 1261 951 1675" style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">〇〇ショップ</p></div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>お店のふんいきのこと</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>商品のこと</p>  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>お店の人のこと</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>その他のこと</p>  </div> </div> | <ul style="list-style-type: none"> *K J法での分類の仕方を演示する。 ☆K J法でカード分類を行うことで、情報を可視化し、対話が生まれやすくする。 *イメージがしやすくなるよう、取材で撮った写真資料を準備しておく。 *1グループの人数は3～6人。 *キーワードの意味を説明する。 <input type="checkbox"/>取材内容を踏まえて、互いの意見を尊重し協力しながら、情報図を作ろうとしている。 (活動の様子) *各グループの参考になるポイントを取り上げる。 *加筆修正する時間を設ける。 |
| 展開 II 10分 | <ul style="list-style-type: none"> ●情報図を発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・各グループの情報図を発表する。 ・他グループの情報図を参考材料にし、自グループの情報図を加筆修正する。 | <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>主体的に学習活動に参加しようとしている。 |
| まとめ 5分 | <ul style="list-style-type: none"> ●次時の活動の見通しをもち、振り返りを書く。 <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">次時 情報図を使って、お店のCMソングを作ろう！</p> | (活動の様子・学習カード) |

<授業風景>



<協議会記録>

分科会提案

分科会として講じた手立ては以下の4点。

1. 課題設定の工夫…社会科とも関連して商店街を盛り上げよう、学習発表会へもつなげる。
2. 対話の質の向上…児童の考えを可視化したり操作したりすることができる、KJ法を取り入れる。
3. 対話の量の確保…①学年間での課題別グループ編成 ②体験活動の充実
4. 主体的な学びの継続…他教科、既習事項との関連を意識して設定。毎時間振り返りカードを書かせる。

～協議の視点～

○視点1 主題に迫るために、題材は適切であったか。本教材を通して、地域商店街のお店の良さを見付けることができていたか。(⇒手立て1、4)

○視点2 児童の対話の量や質を保証するために、思考ツールは有効であったか。(手立て⇒2、3)

授業者自評

- ・地域の調べ活動を3年生の時期に行いたかった。45分の中で深い学びになったのかは難しい。他教科に発展したときに、様々な要素が加わった時に深い学びになったとなればいいと感じている。
- ・全員、参加して活動させたかった。そのために1人1人情報カードを書かせ、KJ法を使った。感想を見ると、グループのみんなと話し合えて、もっと知りたくなったとの感想が見られた。何度も商店街へ行く経験を積ませたいと考えている。地域とのかかわりの観点では深められていると感じる。

協議 ●授業者・分科会の意見 ○参観者の意見

【視点1について】

○本単元において、最終的に思いや考える子はどのような姿を考えているのか。

●自分の地域に対して、自分から関わられる子を育てたい。この地域は賑やかな商店街がそばにあり、めぐまれている。地域の財産を子供が価値づけて思える子供、これを守っていきたいと感じる子供たちを育てたいと考えている。商店街に対して自分たちからアクションを起こせるようにもしたい。

○育てたい児童像があり、CMソングを作るという課題がマッチしている。子供たちにとっても魅力的なものになっている。2年生の生活科の中にも地域を扱う学習がある。他学年との連携も図れる。

○効果的な活動であったと感じる。

○総合的な学習の時間の深い学びについてよく分からなかったが、中学年の先生方の話を聞いて、1つの答えが見つかったように感じた。

【視点2について】

○子供達は一生懸命キーワードを考えていたが、難しい様子も見られた。キーワードをいくつも作っていたが、CMに使える価値あるキーワードを選択する必要がある。次時以降に、児童が考えキーワードを練り上げていく必要があるだろうと感じた。

○話し合いの質を考えると、次時のCM作りのほうが質が高い話し合いになると感じた。字数が限られたCMソングづくりの場面の方が、よりお店の特徴や良さを伝える言葉を選ぶ姿が見られると感じる。その一方、3年生でどこまで考えられるのかという不安も感じる。学習発表会などゴールが明確なのはよい。

●CMソング作りは様々な制約が必要となり、全児童が活躍するのは難しい活動になってしまうので、本時としては扱わなかった。

○児童の対話の質について。キーワードの選択等についてどうだったのか。

○キーワードとしてまとめると抽象化した言葉になる。CM作りをするときに逆に魅力が伝わりにくいものになる心配もある。

○言えない子の支援として効果的だった。キーワード化するときの合意形成にグループによって差があった。

●今日の授業の段階は、いろいろな情報を発散して収束させるおけいこの面がある。どう統合するのかの通過点

のようにも感じる。

○付箋紙のよい言葉や意見に線を引かせても、次の CM ソング作りにつながったのではないか。

●1 グループの発表は20秒。音楽は教師側で選択して替え歌のような形で行う。CM ソングはダイジェスト版ですべての思いをのせることはできない。CM ソングには短い言葉がほしい。児童のキーワードは適切でないものも多かった。情報を分類してキーワードにするのは難しい活動である。適切でないキーワードも出てくる可能性を感じていたので、別の時間をとり、選択、再考する予定である。

<指導・講評>

東京女子体育大学教授

田中 洋一 先生

- ・学年の先生方のバイタリティーに驚いた。総合的な学習の時間の授業としては質の高いものだった。
- ・総合的な学習の時間は平成10年に設定された。教えなければいけないものがない時間。知識技能がいらぬ時間。児童に考えさせる時間で、各学校で設定する時間。本来なら特別活動や教科の内容が入ってしまった流れもある。知識技能はいらぬので、しっかりと考えさせる、課題解決をさせる時間である。総合的な学習の時間は、課題解決能力を育てることができたか、考えることができたかが重要である。
- ・子供が主体的に学ぶ姿とは、子どもたちが自分たちで工夫して考えているかである。1授業の中だけでなく、単元全体で見取ればよい。
- ・深い学びとは、最初にもった自分の考えが他者の意見に触れる中で変容する姿。必ずしも変わらなくてもいい。自分の意見を見つめ直し、根拠や思いが強くなったでもよい。
- ・情報を整理する時間であった。子供たちがものを使って考えていくためのプロセス。KJ法を使って情報を整理することは大切である。KJ法でよく児童は活動していたが仲間分けをただで、整理はまだ未完了。
- ・課題に対して必要な情報を集める。ポスター作り、CM作りは手段である。商店街を活性化する、商店街の良さを広げるなどの具体的な目標があって、商店の魅力聞き取ってくることで、他者に対してアピールできるものになる。
- ・情報が集まったら次段階としては情報を評価することが必要。インパクトがある等、集めた情報を評価する。今日の授業で情報を分類整理したので、次は評価が必要になる。その時に相手意識、目的意識が明確でなくてはならない。相手によって情報の選び方も変わってくる。相手、目標の明示はとても大切である。
- ・アウトプットに合わせる中で情報を取捨選択したり統合したりする。さらにアウトプットに合わせて情報を加工する必要がある。そうすると1つのお店に対して本当に必要な情報が2, 3つ残ってくる。
- ・個人、集団、そして個人に戻すのが主だが、個の考えをもつ前にグループ化してしまう傾向がある。仲間分けした付箋紙を評価することによって、子供の思考が深めるだろう。総合的な学習ではすぐにグループ活動がありきになってしまうが、自分としては商店街の魅了とは何かを考える必要がある。
- ・活動目標としてCMソングを作るのはいいが、せっかく調べてきたものを自分でまとめる学習があるとより有意義になるだろう。
- ・最初に自分なりのカードを書かせ、最後にもう一度カードを書かせるとよいだろう。自分の変容や自分の考えの深まりをとらえることができる。

<成果と課題>

(1) 主体的な学習について

- ・児童にとって他教科の学習が生かされ、また、魅力のある課題になっていたため、主体的な学習を展開することができた。

(2) 対話的な学習の時間

- ・KJ法で情報を可視化、操作化したりしながら整理する学習は、対話が生まれていてよかった。
- ・対話の質を高めるためにも、何のために情報を整理し、どんなキーワードグループに分類していくべきかという、CMソング作りという目的意識を明確にすると、さらなる価値ある活動になってよかった。

高学年分科会

研究推進委員 ○

岡田 綾

吉田 智美

山岡 恭子

○ 田尻 佑樹

○ 坂本 薫

1 A授業指導演

第6学年 道徳の時間学習指導演

「ぼくの名前呼んで」

2 B授業指導演

第5学年 道徳の時間学習指導演

「すれちがい」

高学年分科会 A 授業（第6学年）

道徳の時間学習指導案

平成29年9月16日(木) 第5校時

6年2組 児童数38名

授業者 教諭 田尻 佑樹

1 単元名 家族の絆 C [家族愛、家庭生活の充実]

教材名 ぼくの名前呼んで（光村図書6年）

2 単元の目標

◎父母、祖父母を敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで役に立つことをしようとする心を育てる。

3 単元について

家族とは、児童が生まれて最初に所属する社会であり、最も心安らぐ場である。家族と生活する中で学んだ道徳性は、今後人生の中で出会うであろう様々な集団や社会との基盤となる。温かい愛情をもって児童の成長を見守る第1の場は常に家族である。時代が移り変わる中で、家族の形は変わろうとも、無償の愛で包み込む家族が、児童の人格形成に最も大切な存在であることには変わりない。家族から向けられる深い愛情と慈しみの心によって、児童は成長し大人になっていく。

高学年の段階では、父母、祖父母に対する家族への敬愛が深まる一方で、家族が何かをしてくれることに対しては、当然のことと考えて、日常生活の中で、家族の自分に対する思いや願いについては深く考えることは少ない。当たり前だからこそ、見過ごしてしまう家族からの深い愛情や絆に気づき思いを巡らせることを通して、家族との絆を大切にしようとする心情を育てたい。

4 児童の学習経験

本学級の児童は、6年生になり多感な時期に入っている。個人面談では、家族との関わりを煩わしく感じている家庭での様子が見えたと感じた。その一方で、家族の大切さも感じており、心の中では、家族への感謝や温かい思いをもつ児童が多い。1週間に1度、書いている日記では、家族との楽しい思い出を書く児童や習い事で家族の励ましが力になったと書く児童もいる。

道徳科では、5年生の時に「たまご焼き」を行い、両親の子供に向けられた愛情について考えることができた。6年生になりC[家族愛、家庭生活の充実]の価値を扱うのは本授業で初めてである。

心の奥で家族の愛情を感じている児童が多いからこそ、あらためて子供に向けられている家族の深い愛情に目を向けさせたい。うるさい、わずらわしいと表面的な感情の根底にある家族の愛情や感謝の気持ちに目を向けることで、家族との絆を大切にしようとする心情を育てたい。

5 教材について

本教材は、聴覚・言語障害のある両親に育てられた太郎を主人公にした話である。本授業では、太郎の気持ちに焦点をあてて授業を進めていく。両親の聴覚や言語の障害について、十分に理解しているつもりで「太郎」が、友だちに馬鹿にされたことを悔しく思ったり、気持ちを直接父親にぶつけてしまったりする場面は、家族のありがたさを理解しているつもりでも、つい自分本位な怒りを家族にぶつけてしまうこともある児童にとって、共感して考えることができるだろう。そして父親の涙の手話を見て、なりよりも深い家族の無償の愛や絆を感じた太郎の心情を想像されることを通して、家族との絆を大切にしようとする心情を育てたい。

研究主題 思いや考えを深める子の育成

目指す児童像（深い学びの姿）

教材を通して学んだ道徳的価値に基づいて、自分自身の具体的な経験や考え方、感じ方を想起させることを通して、自分自身を見つめさせる。第3発問（中心発問）を通して、家族から向けられた深い愛情と絆を感じた太郎の心情を想像させた上で、自分自身の関わりの中で振り返らせる。自分自身との関わりの中で考えることで、自分と家族の絆をあらためて考えることができ、家族に対して自分が何かをしようとする意欲にもつながると考えた。

（1）主体的学びのために

主体的な学びでは、「児童が問題意識をもち、自己を見つめ、道徳的価値を自分との関わりで捉え、自己の生き方について考えを深めていく」ことが大切である。特に道徳的価値を自分事として捉え考えることで、自ずと自己を見つめる自己理解が図られる。そのために以下の手立てをとる。

○道徳シートの活用(事前と終末)

児童が家族に対する自分の思いや考えを捉えられるように道徳シートを活用する。道徳シートは前時の授業、本時の終末で活用する。事前に「家族」とは自分にとってどんな存在かを問い、道徳シートに書かせる。児童の家庭の背景や発達段階に応じて、一人一人が家族への思いや考えを書くであろう。事前に家族に対する思いを書かせることで、課題意識をもたせたい。さらに道徳シートに書かれた考えをICTで分類整理した表を授業の導入で活用する。皆がもつ家族へのイメージを共有する中で、家族とは自分にとってどんな存在かを授業の課題として提示する。授業を通して、家族から自分に向けられた愛情について考えた上で、終末に道徳シートを再び書かせる。家族に対する自分の思いや考えの変化、深まりを児童自身、そして教師が捉えられると考えた。

（2）対話的学びのために

対話的な学びでは、「児童が教師や友達との話し合い、教材の中の登場人物や先哲などとの対話を通して、自分と異なる意見と向かい合い、議論する中で、自分自身の道徳的価値の理解を深めたり広げたりする」ことが求められている。

○教材提示(教材の登場人物との対話)

本授業では教材提示を2段階で行う。教材の前半部は教材文を児童の手元に配布して、読み聞かせをする。児童が教材の世界に入りこめるよう児童の反応を教師が見ながら、間を大切に読み聞かせをしたい。教材文を読みながら教師の範読を聞くことで、場面の状況を捉え、主人公（太郎）の心情の変化を想像できると考えた。教材の後半部である父親の言葉（手話）の場面は、ICTを活用し、スライドショーで児童に教材提示を行う。画面に父の言葉（手話）を映し出すことで、父親の深い、深い愛情を一心に受け止める太郎の心情をより深く児童が想像できると考えた。

○家族の深い愛情を多面的に考える発問の工夫

中心発問では、「父の初めての涙と心の底からほとばしるような手話をまばたきもせず見つめていた太郎の心の中にはどんな思いがわき上がっていましたか」と問い、父親から向けられた深い愛情をうけとめた太郎の心情を想像させる。「自分に向けられた愛の気付き」「後悔、反省」「感謝」「これからの意欲」の4つに分けて板書する。分類できない考えは無理に分けないようにする。太郎の心情を多面的に捉えることを通してねらいとする価値に迫りたい。

7 本時

(1) 目標

- ・父の家族への思いを受けとめた太郎の気持ちを考えることを通して、家族の愛情に気づき、家族の絆を大切にしようとする心情を育てる。

(2) 展開

| 時間 | 学習内容・学習活動 | 手立て(*)研究主題に迫る手立て(☆) 評価・評価方法 (◇) |
|-----|---|---|
| 5分 | <ul style="list-style-type: none"> ●AIAI モンキーの分類表を見て、皆がもっている「家族」へのイメージを知る。 | <ul style="list-style-type: none"> *大切なものだと分かっているながらも「うるさい」「けんか」等、家族に対して煩わしさを感じていることを確認する。 ☆道德シートの回答内容を、AIAI モンキー(ICT機器)を活用し、分類整理し、表で提示することで課題意識をもたせる。 |
| 10分 | <ul style="list-style-type: none"> ●教材「ぼくの名前呼んで」を聞き、話し合う。 | <ul style="list-style-type: none"> *声の抑揚や間を大切に読み聞かせる。 ☆教材の後半部をスライドショーで教材を提示することで、より深く教材の世界に浸れるようにする。 |
| 15分 | <ul style="list-style-type: none"> ●「おまえ、父ちゃん母ちゃんから一度も名前呼ばれたことないだろう」といわれた太郎とはどんな気持ちだったでしょうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・名前をよばれたことはない。 ・なんでそんなことを言うんだ。 ●どんなことを思いながら、太郎は、父親にしがみつき、声をあげて泣いたのでしょうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくの名前をよんでよ。 ・寂しい。なんで僕を生んだんだ。 ・声に出して答えてよ。 ・お父さんは悪くない、でもつらい。 ●父の初めての涙と心の底からほとばしるような手話をまばたきもせず見つめていた太郎の心の中にはどんな思いがわき上がっていましたか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくは、こんなにも愛されていたんだ。 ・名前を呼ばれなくても、ぼくは深い愛情で包まれているんだ。 ・ありがとう、お父さん。 ・ぼくも胸をはって生きるよ。お父さんとお母さんのように。 | <ul style="list-style-type: none"> *今まで感じたことのない切なさを感じ、悲しみといら立ちを感じる太郎の気持ちに共感させる。 *乱暴に玄関を開けて、ドンドンと足を踏み鳴らすほど、父に伝えたい思いがあることをおさえる。 *父親も呼びたいけれども呼べないことに気が付いている太郎の気持ちも出させるために、「手をとめてためらった時の太郎の気持ち」を聞く。 *家族から向けられる深い愛情、慈しみの心に気づかせる。 ☆「自分に向けられた愛の気づき」「後悔、反省」「感謝」「これからの意欲」などに分類して板書に整理する。すべての思いの根底に家族への愛情、絆があることをおさえる。 |

| | | |
|-----|---|---|
| 10分 | <p>●自分自身を振り返る。</p> <p>・家族から温かい気持ちや愛情を感じた時はありますか。それはどんな時ですか。</p> | <p>*家族に対する価値理解をもとに、自分自身を振り返る。</p> <p>◇家族から温かい気持ちや愛情を感じたこと、それはどんな時かを考えることができたか。(ワークシート)</p> |
| 5分 | <p>●「道徳シート」をもう一度見直し、「家族」について考える。</p> | <p>☆授業を通して、あらためて家族に対する自分のイメージを道徳シートに書かせる。授業前との変化を児童、教師が感じられるようにする。</p> |
| 5分 | <p>●AIAI モンキーの分類表を見て、皆がもっている「家族」へのイメージを知る。</p> | <p>*大切なものだと分かっているながらも「うるさい」「けんか」等、家族に対して煩わしさを感じていることを確認する。</p> <p>☆道徳シートの回答内容を、AIAI モンキー(ICT機器)を活用し、分類整理し、表で提示することで課題意識をもたせる。</p> |

(3) 板書計画

| | | | |
|---|---|---|---|
| <p>泣きながら手話を終えて、ぶつかるように父親にしがみついた太郎はどんなことを考えていましたか。</p> | <p>ぼくの名前よんでよ。 寂しい。なんで僕を生んだんだ。 声に出して答えてよ。 お父さんは悪くない、でもつらい。</p> | <p>ぼくの名前よんで</p> <p>おまえ、父ちゃん母ちゃんから一度も名前呼ばれたことないだろう」といわれた太郎</p> <p>名前をよばれたことはない。 なんでそんなことを言うんだ。</p> | <p>父の初めての涙と心の底からほとばしるような手話をまばたきもせず見つめていた太郎</p> <p>名前を呼ばれなくても、ぼくは深い愛情で包まれてるんだ。 ありがとう、お父さん。 ぼくも胸をはって生きるよ。お父さんとお母さんのように。</p> <p>家族から温かい気持ちや愛情を感じた時はありますか。それはどんな時ですか。</p> |
|---|---|---|---|



<協議会記録>

分科会提案

○視点1

主題にせまるために、教材「ぼくの名前を呼んで」が適切であったか。また、本教材を通して児童は家族の愛情について改めて気付くことができていたか。

○視点2

第3発問によって、児童は授業のねらいや道徳的価値に基づいて、自分の体験をもとに振り返り、家族について考えることができたか。

授業者自評

- ・子供はよく考え、発言していた。
- ・研究主題に照らし合わせ、本授業では先生と子供、子供同士、教材と子供の3つの対話を重視した。対話を通して、児童が自己を見つめ、考えを深めることをねらった。

協議 ●授業者・分科会の意見 ○参観者の意見

【視点1について】

○教材の重さがあり、扱いづらさもあったのではないか。

●重い教材ではあるが、感動し心を揺さぶられる教材の方が、子供の心に残ると考え本教材を選択した。

○障害と言う言葉がからんでくる。シンプルな教材の方が身近な存在について考えられるのではないか。

●他の教材でも家族の役割を考えさせるものもある。シンプルな教材の良さもあれば、複雑で思い教材の良さもある。今回は6年生と言う発達段階を考慮し、後者を選択した。

【視点2について】

○後段で自分の考えを述べた時、その場面をもう少しふくらませることができたら、もう少し考えを深めていくことができたのではないか。

○後段で自分の意見を話した時、資料から離れて子供同士話合う時間をもう少しとりたかった。

○事前の意見と授業後の意見の変容を子供が把握し、見返す時間がほしかった。

●教材の登場人物に自分を自然に重ねて語ることで家族について自己を見つめることをねらっていた。そのためにも教材をしっかりとおさせることで後段に深まりが出ると考えた。自由な話し合いをすると、家族と言うデリケートな面に触れる怖さがあった。指名等、意図的に配慮した面もある。パソコンで意見の変容をみる試みを行ったが、パソコンに書き込む壁によって児童の素直な意見が出ない心配も感じた。

【その他】

○自由度の高い話し合いをできる子供たちではないかと感じた。拾える声が増えるのではないか。

●今後、試してみたい。

○道徳シートをどのタイミングで書けばよいか指導者がよく考えていた。

○家族との関わりと今日は子供が考えられていてよかったと感じた。

<指導・講評>

東京女子体育大学教授

田中 洋一 先生

- ・授業者の雰囲気よかった。子供達が話しやすいと感じた。
- ・道徳は結論ありきではなく、プロセスを考えさせなければならない教科である。
- ・本授業は主体的、対話的だったかという疑問が残る。
- ・道徳の主流は、教材提示を軽くし、話し合いを重視する風潮にある。教材は一目で分かり話合えるものがよいのではないか。
- ・本教材の主人公の心の動きは複雑である。今の道徳の教材は長く複雑な傾向にある。障がいはあるがゆえの深い愛情の読み取りが必要になってくる。
- ・中心発問で考えた内容と、自己の振り返りがつながっていなかった。
- ・うるさい親の愛情に気が付くような、内容は少し軽い教材の方がよいのではないか。
- ・子供は自分の体験を思いついていたが、対話的で深い学びになっていなかった。授業の半分くらい対話的な時間でもよかった。
- ・子供のわがままな気持ちに寄り添わせたかった。
- ・感性と理性のゆれる動きを子供に感じさせる手立てがほしい。
- ・よい、悪いではなく、こうあるべきでもなく、なかなかできないのが人間だということに気が付かせ、ではどうするべきかを考えさせたい。
- ・後半の展開は話し合いの時間を増やした方がいいだろう。
- ・自分の思いを共有して深めていく場面が一番大事である。道徳ではこれまでもずっと主体的で対話的で深い学びが重視させてきた。
- ・道徳の授業こそ、パターン化しない方がいいだろう。1時間できれいに終わらなくてもいい。

<成果と課題>

(1) 主体的な学習について

- ・ICTの活用は、児童の変容を見とるうえで効果的であった。一方で子供のICTの技能の問題、変容を求めることの意義等、新たな課題が見られた。
- ・道徳科における主体的な学習とは、児童はねらいとする道徳的価値をいかに自分事としてとらえるかにかかっている。多様な指導法、手立てを行う中で、有効な指導法を今後も探していきたい。

(2) 対話的な学習について

- ・道徳科の教材は内容を読み取ることが目的ではない。教材の中で、ねらいとする道徳的価値に関する部分を考え、話し合う中で、ねらいに迫ることが大切である。道徳の教材の活かし方を改めて確認したい。
- ・中心発問を通して、児童は太郎の心情を多面的に考えていた。太郎の心情が自己の振り返りにうまくつながらなかった。教材で学んだ価値や心情をどのように子供の心に反映させ、自己を振り返られるのかを今後、検討したい。
- ・登場人物によりそわせて話し合うのか、自己の振り返りの場面で話合わせるのか授業によって展開は変わるだろう。本授業では、登場人物によりそって話し合う時間が多く、自己の振り返りの場面の時間は少なかった。自己の振り返りに時間の確保、ワークシートの活かし方等、有意義な対話になるよう今後も研鑽をつんでいきたい。

高学年分科会 B 授業（第5学年）

平成29年9月12日（火）3校時

5年1組 授業者 岡田 綾

- 1 主題名 広く心を開いて 2－（4） 寛容・謙虚
教材名 すれちがい

2 思考を深める課題の設定

「主体的な学び」

- ・子供たちと同世代の子供が出てくる話を取り上げることで、自分の経験と重ね合わせながら読み進めていくことができると考えた。

「対話的な学び」

- ・同じ出来事をよし子、えり子の2人の立場から書いたことで、「すれちがい」が生まれた時の2人の気持ちを客観的に考えることができる。また、2人の資料を分割して使用し、その時の2人の気持ちをより友達と共有することができるようにする。

「深い学び」

- ・教材の中で考えたことを基に、自分自身を振り返り、今後自分はどのような態度で接していくべきか、考えることができる。

- 3 本時のねらい 相手の立場や気持ちを考え、やわらかい心で自分と異なる人の立場を受け入れようとする態度を養う。

4 展開（6／6）

| 学習活動 | 手だて（*） 思考を深める手だて（☆） 期待される児童の姿 <input type="checkbox"/> |
|--|---|
| 1 「すれちがい」という言葉の意味を考え、体験を話し合う。 ○友達と気持ちや行動ですれ違ってしまった経験があるか。また、そのときどんな気持ちだったか。 ・初めは楽しく遊んでいたが、ルールについて意見が分かれ、けんかになってしまった。 | *ねらいとする道徳的価値である「寛容・謙虚」について考えさせるきっかけとする。 |
| 2 第1教材「すれちがい（1）」を読んで話し合う。 ○電話がかかってこなかった時のよし子はどんな気持ちだったか。 ・電話をすることを忘れてしまったのかな。 ・どうしたのだろう。心配だな。 | ☆違う立場の2人の気持ちを考えさせるため、まずよし子の資料だけを提示する。 |

| | |
|---|--|
| <p>○2時になって広場で待っていた時のよし子はどんな気持ちだったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早くしないとピアノの練習に間に合わない。 ・まだ来てないなんて。 ・自分から誘ったのに、ひどい。 | <p>*自分の行動の勝手さには気が付かず、相手への怒りばかりをつのらせるよし子に共感させる。</p> |
| <p>○えり子に「ごめんね。」と言われても知らん顔をしていたよし子はどんな気持ちだったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・謝られても、すっきりしない。 ・約束を破るなんて、許せない。 | <p>*相手の言い分を聞き入れられないよし子の気持ちに共感させる。</p> |
| <p>3 第2教材「すれちがい(2)」を読んで話し合う。</p> <p>○もし、えり子の事情をよし子が知ったら、よし子はどのようなことを考えたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・えり子さんのことを考えず、自分のことばかりを考えてしまった。 ・えり子さんのことを責めすぎてしまった。 ・ちゃんと、えり子さんの言い分を聞けばよかった。 | <p>☆別の視点から考えさせることでより主題に迫ることができるようにする。</p> <p>*相手のことを理解することや、心を開くことの大変さ、難しさについてふれる。</p> |
| <p>4 相手と意見が食い違う時のことを考える。</p> <p>○意見が食い違ったとき、どのように考えるとよいだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の言うことをしっかり受け止める。 ・相手を信じる。 ・自分のことばかり考えない。 <p>5 教師の説話を聞く。</p> | <p>☆意見が食い違う場合にどのように接してきたかを考えさせ、価値の深まりを図る。</p> |

<成果と課題>

(1) 主体的な学習について

第2教材を使うことによって、登場人物が置かれている状態を客観的に見ることができ、自分の中だけで判断せず、人に対して寛容で謙虚に接するという主題により迫ることができた。

(2) 対話的な学習について

第1教材と第2教材を別に提示することで、子供たちは比較しながら意見を交換することができた。

相手の立場を考えることは、言葉ではわかっているにもかかわらずなかなかできないことである。そのできないことについて共感的な立場話し合うことが大切であるとする。

Ⅲ 研究のまとめ

研究の成果と課題

今年度の研究は、全教科・領域において「主体的・対話的で深い学び」を実践し、研究主題の「思いや考えを深める児童の育成」をめざしてきた。低学年分科会では国語科、中学年分科会では総合的な学習の時間、高学年分科会では道徳の提案授業を行った。それぞれの授業実践から見えてきた成果と課題は、次のように整理できる。

1 主体的な学びについて

課題設定の工夫

- 主体的とは、子供がしっかりと考え、自分の考えをもつこと。そのためには、発問の吟味が欠かせない。知識・技能を確かめる問いなのか、思考・判断を促す問いなのか、明確に意識して指導する必要性を改めて確認できた。
- 他教科の学習が活かされる課題、自分たちで工夫して考えることのできる課題は、子供たちにとって魅力的であり、課題解決能力を育むことにつながった。
- 複数教材を使うことは、より多面的に客観的に考えさせるために効果的であった。

主体的な学びの継続

- ICT機器の効果的な活用は、子供が自分たちで課題を見つけて解決していこうとすることを促した。
- 自分たちの思いを共有して、深めていく場面が最も重要であることが分かったが、自分の考えを見つめ直したり、変容を自覚したりするところまでは達していない。

2 対話的な学びについて

対話の質の向上

- ICT機器を使った動画や分類データは、考えるためのよい材料となり、その活用によって対話が深まった。
- KJ法で情報を可視化しながら操作したり、分類シートで考えを整理したりする方法は、対話を生み出すことにつながった。
- 何のために情報を整理したり、分類したりするのかといった目的意識を明確にもたせることで、価値ある対話につなげていくことが必要である。

対話の量の確保

- 個人、集団、個人の順序で考えさせ、自分の考えが他者との対話の中で変容していく姿が深い学びとなることが分かった。
- 自分の考えをしっかりとらせるための時間、グループでの対話の時間、自分の変容や自分の考えを見直す時間を十分にとることが必要である。

IV 研究発表会資料

1 東京都 ICT 教育環境整備支援事業 公開授業指導演

第4学年 体育科学習指導演

「器械運動 跳び箱運動」

2 「未来の学び」創造シート

平成28・29年度 中野区教育委員会「学校教育向上事業」研究指定校

研究主題 **未来社会を見据えた「未来の学び」の創造**
～保幼小中連携「キャリア教育の実践」～

平成30年1月19日(金) 研究発表会

体育科学学習指導案

日 時 平成29年12月20日(水)
 5校時 13:20~14:05
 対 象 第6学年1組 38名
 授業者 主任教諭 安藤 亨
 主任教諭 土屋 太志
 主任教諭 竹内 宇宣

1 単元名 器械運動「跳び箱運動」

2 単元の目標

- 【技能】 基本的な支持跳び越し技に取り組み、それぞれについて自分の能力に適した技やその発展技ができるようにする。
- 【態度】 運動に進んで取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、場や器械・器具の安全に気を配ったりすることができるようにする。
- 【思考・判断】 自己の能力に適した課題をもち、技ができるようになるために練習方法や場を工夫することができるようにする。

3 単元の評価規準

| | ア 運動への関心・意欲・態度 | イ 運動についての思考・判断 | ウ 運動の技能 |
|-----------------------|---|---|------------------------------------|
| 運動領域の 評価規準 | 器械運動の楽しさや喜びに触れることができるよう、進んで取り組むとともに、約束を守り助け合って運動をしようしたり、運動する場や器械・器具の安全に気を配ろうとしたりしている。 | 自分の力に合った課題の解決を目指して、練習の仕方を工夫している。 | 跳び箱運動について、安定した基本的な技やその発展技を身に付けている。 |
| 運動領域の 評価規準の 具体例 | ①技を高める楽しさや喜びに触れることができるよう、跳び箱運動に進んで取り組もうとしている。 ②約束を守り、友達と助け合って技の練習をしようとしている。 ③器械・器具の準備や片付けで分担された役割を果たそうとしている。 ④運動する場を整備したり、器械・器具の安全を保持したりすることに気を配ろうとしている。 | ①自分が取り組む技の行い方やポイントを知っている。 ②自分が取り組む技ができるようになるために、練習の場や方法を選んでいる。 | ①自分の力に合った安定した基本的な支持跳び越し技ができる。 |

4 単元について

(1) 単元観

器械運動領域の運動は、克服・達成型の特性をもっており、児童が「自分の力に合った技ができた!」、「自分の目標を達成できた!」という時に楽しさを味わうことができる運動と言える。しかし、実際には、短い単元計画の中で、すべての児童がこの特性を味わうことが難しく、「技ができない」ことが跳び箱運動嫌いに繋がっている実態がある。そこで本単元では、支援を必要とする児童が安心して技に取り組み、できない技を克服していけるように、個の課題に応じた場の設定や外部人材の活用、「できる!」に繋がる技能ポイントの精選を行っていききたい。またそれと同時に、「技ができるからすごい!」という児童がもっている技能中心の価値観を広げ、単元を通して「技はできないけど、どうやったら解決できるか分かっていることもすごい!」という知識についても価値付けて授業を行っていききたい。そのために、タブレットがもつ自分の技の課題を発見したり、技能ポイントを動画で確認したりするなどの優れた機能を活用し、授業を行っていききたい。

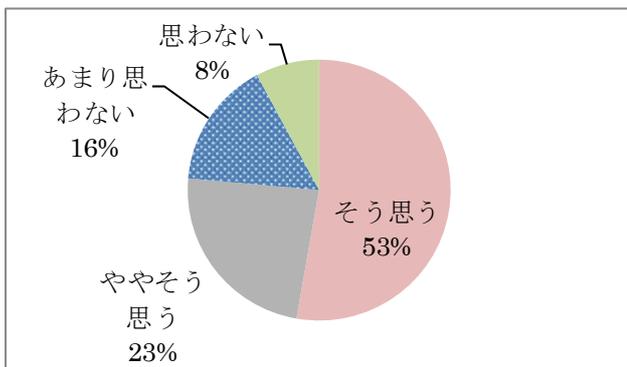
(2) 児童観

本学級の児童は、体を動かすことが好きな児童が比較的多い。しかし、休み時間に外遊びに行く児童と教室で過ごす児童の二極化が見られる。児童の関わり合いの面では、うまくいかない児童を励ましたり応援したりする姿が見られる一方で、友達とポイントを教え合ったり、協力して運動したりすることに課題が見られる。

これまでの他の領域の授業の様子をみると、意欲的に取り組む子が多いが、自分に合った課題を設定したり、運動のポイントを見つけたりする児童が少ないように感じる。また、跳び箱運動については、次のアンケート結果から、体育が好きな児童が比較的多い半面、跳び箱運動を「怖い」「跳べない」と感じ、消極的な児童が7割近くいる。

<実態調査>

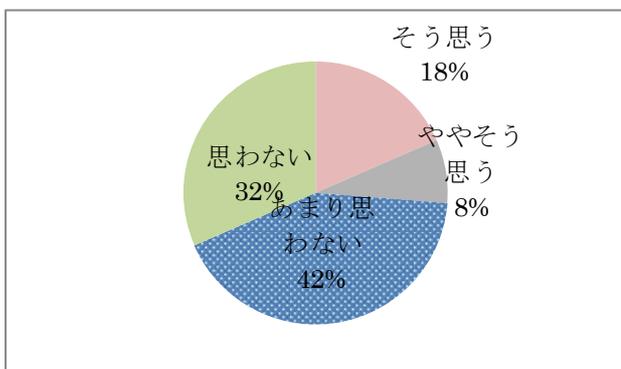
①体育は好きですか? (人)



【結果と考察】

本学級は、体育が好きだと思っている児童がおよそ8割で、体育に対して意欲的な児童が比較的多い。その一方で、体育が嫌いだと考えている児童も2割程おり、授業の工夫や改善が求められる。

②跳び箱は好きですか? (人)



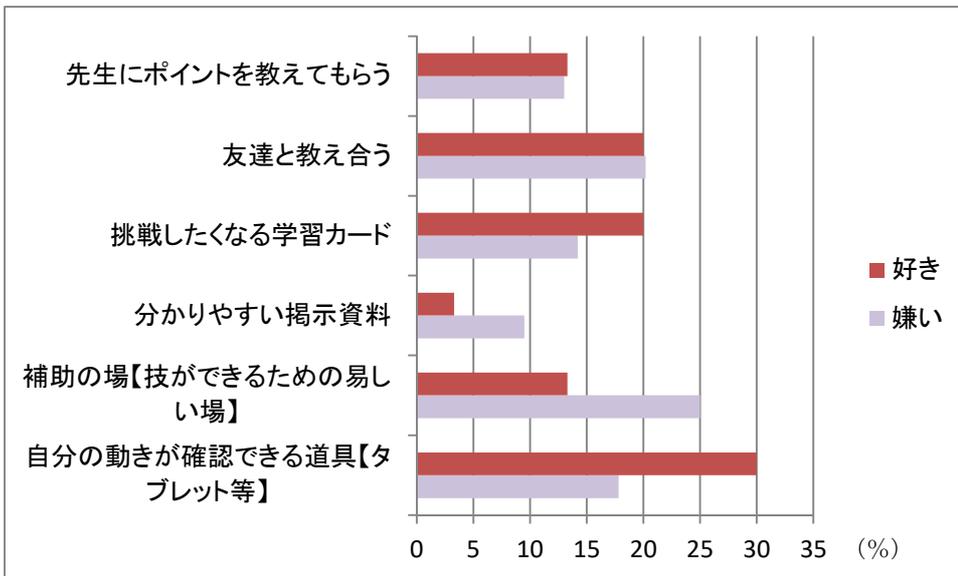
【結果と考察】

本学級では、跳び箱が好きな児童がおよそ25%と、そう思わない児童がおよそ75%で、学級の多くの児童が跳び箱運動に苦手意識を感じている。跳び箱が好きな児童は、「挑戦するのが楽しい」「いろいろな技があって楽しい」「跳べた時にうれしい」と感じている。苦手な児童は「跳ぶのが怖い」「失敗して怪我をするのが怖い」「失敗すると恥ずかしい」「どうやったらできるようになるのか分からない」などと、跳び箱運動に対して「怖い」と感じている児童や「どうしていいか分からない」と感じている児童が多い。そのことをふまえて、運動に対する怖さをやわらげるための場の工夫、どうやったらできるようになるかを解消するための技能のポイントの効果的な提示や自分の運動の様子を俯瞰的に見るためのタブレットの活用、外部人材を活用したきめ細かい指導の場の設定などの配慮が必要である。

③ 飛び箱が楽しくなるためには何が必要だと思いますか？(3つ選ぶ)

飛び箱が好きな児童と嫌いな児童とのクロス集計 (%)

- 1 先生にポイントを教えてもらう (好き 13.3%、嫌い 13.0%)
- 2 友達と教え合う (好き 20.0%、嫌い 20.2%)
- 3 挑戦したくなる学習カード (好き 20%、嫌い 14.2%)
- 4 分かりやすい掲示資料 (好き 3.3%、嫌い 9.5%)
- 5 補助の場【技ができるための易しい場】 (好き 13.3%、嫌い 25.0%)
- 6 自分の動きが確認できる道具【タブレット等】 (好き 30%、嫌い 17.8%)



【結果と考察】

飛び箱運動が楽しくなるためには、「友達と教え合う」「先生にポイントを教えてもらう」が必要と考えている児童が飛び箱運動の好き嫌いに問わず共に多い。また、飛び箱運動が好きだと回答した児童は、嫌いと答えた児童に比べて「自分の動きを確認できる道具」「挑戦したくなる学習カード」を必要としている児童が多い。これは最低限の技ができることを前提に、さらに自分の試技の様子を観察して質を高めていきたい、さらに新しい技に挑戦していきたいという運動への意欲からくるものだと考えられる。一方、飛び箱運動が嫌いだと回答した児童は、好きと答えた児童に比べて、「易しい練習の場」が必要だと考えている児童が多い。これは普通の場合で試技をすることが怖かったり、なかなか技が身に付かず困ったりしていることが原因だと考えられる。

苦手意識のある児童には、易しい場を設けたり、教師が具体的に補助できる場を設けたりしながら、タブレットの良さである、自分の実際の様子を見て考えたり、見本の動画を見て学べたりするところを生かした授業を展開していきたい。また発展的な技に挑戦していきたい児童には、タブレットの活用に加え、より専門的な外部人材の具体的な指導や補助が受けられる場を設けていく。

(3) ICT活用のねらい

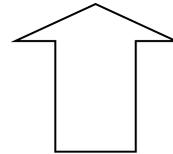
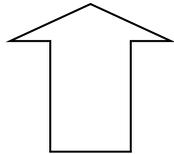
本単元では、①初めて取り組む技のイメージを手本の動画を見てつかむ/②撮影した自分の動きと手本の動画を比較し課題を発見する/③撮影された自分の動きを見ながら動きの修正を行う、の3つのねらいICTを活用していく。特に自分の動きを俯瞰的に観察し課題を見付ける場面で、タブレットの撮影・再生機能や追っかけ再生機能の利点を生かして授業を行っていきたい。

(4) ICT支援員の支援

本単元で活用するタブレットの使用法の説明(撮影、再生、追っかけ再生機能)や、手本の動画のインストール、体育館におけるインターネット環境の整備など、ICT支援員の先生に単元前から支援していただいた。また授業でも、児童がタブレットを使用する際に、ICT機器の準備や操作の説明など支援していただいた。

目指す児童像(深い学びの姿)

自分の課題に気づき、練習方法を選んだり工夫したりすることができる子



(1) 主体的学びのために

○タブレットを活用して技のイメージやポイントを児童に分かりやすく伝え、技に挑戦する意欲を高める。



○安心して技に取り組める場を設定し、技に挑戦する意欲を高める。



○主運動に繋がる運動遊びをゲーム形式で行い、跳び箱運動に取り組む意欲を高める。



(2) 対話的学びのために

○手本の動画を見て、技のイメージをつかむ。
(資料との対話)



○技のポイントを全体で共有する。
(資料との対話)



○タブレットを活用し、友達と撮影し合い、一人一人の課題についてグループで話し合う時間を設定する。(友達との対話)



6 単元の指導と評価計画

| 学習の段階 | | 知る | | つかむ | | 高める | |
|-----------|---|---|---|---|---|-----------|-----------|
| 時数 | | 1 | 2 | 3 | 4(本時) | 5 | 6 |
| 一時間の学習の流れ | 1. オリエンテーション ○学習の流れ ○タブレットの使い方 ○グループ学習の仕方 | 1. 学習の流れの確認 ・本時の学習課題や内容を伝え、児童が学習に見通しをもてるようにする | | | | | |
| | 2. 準備運動 ○体の部位をほぐす | 2. 準備運動・補助運動 ・体の各部位(肩・手首・腰・膝・足首など)をほぐすようにする ○ゆりかご、くま歩き、かえるの足打ち、うさぎ跳び など ・単元の後半部分では、動きの大きさ、時間や回数、用具等を利用して、動きの質を高めていく | | | | | |
| | 3. 感覚づくりの運動 ○主運動を行うために必要な基礎となる感覚を身に付ける | 4. ポイントタイム①(技のポイントを知る) ○大きな開脚跳び | 4. ポイントタイム①(技のポイントを知る) ○かかえ込み跳び(縦) | 4. ポイントタイム①(技のポイントを知る) ○大きな台上前転(発展:首はね跳び、頭はね跳び) | 4. ポイントタイム①(技のポイントを知る) ・切り返し系、回転系の技から自分が取り組む技を選択し、同じ技に取り組む児童でグループを作る ・これまでの学習で見つけた、自分が取り組む技の課題としているポイントをタブレットや資料で確認する | | |
| | 4. 場の準備 ○安全面に気を付けて準備をする ・グループで担当場所を決めておく | 5. ポイントタイム②(ポイントと比較して自分の課題を発見する) ①ポイントタイム①で学習したことを意識して技に取り組む(3回) ②タブレットを使って撮影し合う ③撮影した動画を見ながら、一人一人の課題をグループで伝え合う | | | | | |
| | 5. できる技の確認 ○第5学年までに取り組んだ自分ができている技の確認をする ○安定した開脚跳び ○かかえ込み跳び(横) ○安定した台上前転 | 6. チャレンジタイム(自分の課題に合った場で技に取り組む) ・技ができそうにない児童は、「易しい練習の場」で技に取り組むよう促す ・児童が確認したい動きの内容に適したタブレットの活用をしているか確認する ・タブレットの動画や掲示物と動きを見比べながら技に取り組む | 6. チャレンジタイム(自分の課題に合った場で技に取り組む) ・技ができそうにない児童は、「易しい練習の場」で技に取り組むよう促す ・タブレットの動画や掲示物と動きを見比べながら技に取り組む ・児童が確認したい動きの内容に適したタブレットの活用をしているか確認する | 6. チャレンジタイム(自分の課題に合った場で技に取り組む) ・技ができそうにない児童は、「易しい練習の場」で技に取り組むよう促す ・タブレットのポイントや掲示物と動きを見比べながら技に取り組む ・児童が確認したい動きの内容に適したタブレットの活用をしているか確認する ・発展技に取り組ませる前には、基になる「大きな台上前転」ができていないことを必ず確認する | 5. チャレンジタイム(自分の課題に合った場で技に取り組む) ・タブレットのポイントや掲示物と動きを見比べながら技に取り組む ・児童が確認したい動きの内容に適したタブレットの活用をしているか確認する ・発展技に取り組ませる前には、基になる「大きな台上前転」ができていないことを必ず確認する ・技ができそうにない児童は、「易しい練習の場」で技に取り組むよう促す ※発展技の場には、教師や外部講師が必ず補助について指導を行う | | |
| | 6. 振り返り | 7. 振り返り ・学習課題について、よい動きや、よい学び合いができていた児童を紹介する ・技ができた場合は、どうしたらできたのか、できなかった場合は、どこまでできているのかを振り返るようにする | | | | | |
| | 7. 整理運動 | 8. 整理運動 ・今日の学習でよく使った部位をほぐすようにする | | | | | |
| | 8. 片付け | 9. 片付け ・安全面に気を付けて片付けるようにする | | | | | |
| 評価計画 | 態度 | ③④観察・カード | | ①観察・カード | ②観察・カード | | |
| | 思考・判断 | | | ①観察・カード | ①観察・カード | ②観察・カード | ②観察・カード |
| | 技能 | | | | | ①観察・タブレット | ①観察・タブレット |

7 本時の学習（4/6時間）

（1）本時の目標（●が重点）

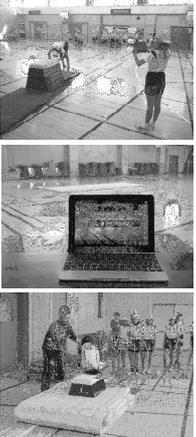
【技能】○安定した基本的な支持跳び越し技ができる。

【態度】○約束を守り、友達と助け合って技の練習をしようとしている。

【思考・判断】●自分が取り組む技の行い方やポイントを知っている。

（2）本時の展開

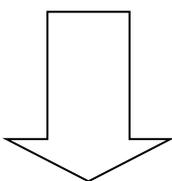
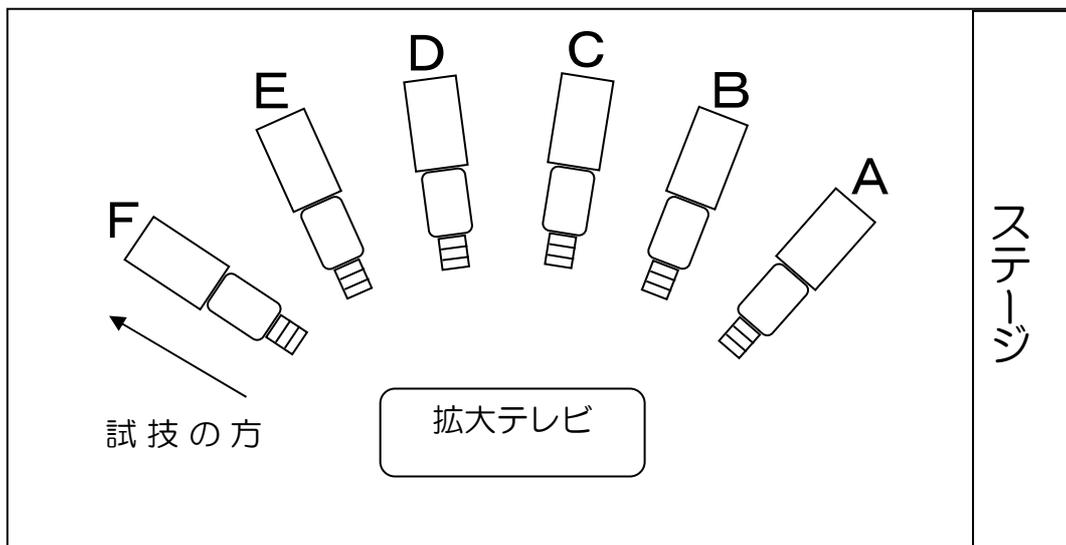
| 時間 | 学習活動 | 手立て(*) 評価・評価方法(◇) |
|-----|--|--|
| 10分 | <p>1 整列・あいさつ・学習のめあて、学習の流れの確認</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>友達と協力して、自分の「大きな台上前転」の課題を見付けよう！</p> </div> <p>2 準備運動・補助運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カエルの足打ち→ 腕支持感覚、腰を高く上げる ・あざらし歩き → 腕支持感覚 <p>3 準備</p> | <p>*「友達と協力」については、具体的な姿を示してめあてについて考えさせる。</p> <p>*学習の流れが分かる掲示物を用意して確認することで、見通しをもたせる。</p> <p>*補助運動は、一つ一つの動きを丁寧に行うように指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かえるの足打ち⇒手は肩幅に開いてパー 手と手の間を見る ・あざらし歩き⇒腰から下の力を抜き、手のひらを開いて、腕の力で進む。 <p>*安全に気を付けて、グループで協力して行うよう伝える。</p> |
| 5分 | <p>4 ポイントタイム① (技のポイントを知る時間)</p> <p>○「大きな台上前転」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お手本の動画を見て、技のポイントを知る。 ・「台上前転」と「大きな台上前転」の技の違いや補足のポイントを知る。 <div style="text-align: center;">  </div> | <p>*拡大テレビでお手本の動画を全員で見て、ポイントを知る。</p> <p>【拡大テレビ：教員による教材の提示】</p> <p>*台上前転のポイントについて確認する。 (自分なりに一番大切だと感じたポイントについて聞く)</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 20px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p><タブレットのポイント+補足のポイント></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 踏み切り板に向かって勢いよく片足で踏み切る 2 両足のつま先でバーンと大きな音を出して踏み切り板を蹴る 3 跳び箱の手前の方に手をつき（補足） 4 ひざを伸ばし、腰を高く上げる。(重点) 5 跳び箱に頭の後ろをつけて回る（補足） </div> |

| | | |
|-----|---|--|
| 10分 | <p>5 ポイントタイム② (自分の課題を見付ける時間)</p> <p>○「大きな台上前転」</p> <p>①ポイントを意識して技に取り組む。 (3回)</p> <p>②タブレットを使って撮影し合う。</p> <p>③タブレットのポイントを見ながら、一人一人の課題をグループで話し合う。</p> | <p>*タブレットで撮影する際には、手本の動画と同じアングルで撮影する。</p> <p>*技ができそうにない児童は無理をせず、友達を撮影したり、友達の課題を見付けたりするよう伝える。</p> <p>【タブレット：児童による調査活動、協働での意見整理】</p> |
| 15分 | <p>6 チャレンジタイム (自分の課題に合った場で技に取り組む時間)</p> <div data-bbox="236 678 815 1137" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  <p>タブレットのアングルを工夫して撮影し合いながら動きを修正する。</p> <p>タブレットの追っかけ再生で動きを確認して動きを修正する。</p> <p>補助を受けられる場、易しい場で、動きの感覚をつかむ。</p> </div> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>○「首はね跳び」(発展技)</p> <p>・外部講師のいる場で練習する。</p> <p>①「大きな台上前転」ができているか確認する。</p> <p>②「首はね跳び」の技のポイントをタブレットで確認する。</p> <p>③技に取り組む。</p> <p>(外部講師による補助、タブレットによる動きの修正)</p> <p>※児童の状況によって「頭はね跳び」も扱う。</p> | <p>*技ができそうにない児童は、「易しい練習の場」で技に取り組むよう促す。</p> <p>*個別にタブレットで動きを撮影する場合には、技に取り組む前に、撮影者に自分の課題を伝えてから行う。</p> <p>*技の全体像を確認する時には、タブレットの「追っかけ再生」の場を活用する。</p> <p>*撮影するだけでなく、お手本の動画と見比べながら技に取り組むよう伝える。</p> <p>【タブレット：児童による調査活動、協働での意見整理】</p> <p>◇自分が取り組む技の行い方やポイントを知っている。【思考・判断(観察)】</p> <p>◇約束を守り、友達と助け合って技の練習をしようとしている。【態度(観察)】</p> <p>*「大きな台上前転」ができている児童に声を掛け、発展技に取り組むよう促す。</p> <p>*タブレットで児童と見本を確認し、「大きな台上前転」のポイントに『手で跳び箱を押しながら腰を伸ばす』動きが付け加わることで「首はね跳び」に技が発展していくことを伝える。</p> <p>*安全に留意し、必要に応じて補助を行う。</p> <p>【タブレット：教員による教材の提示】</p> <p>【タブレット：児童による調査活動、協働での意見整理】</p> <p>◇自分が取り組む技の行い方やポイントを知っている。【思考・判断(観察)】</p> |
| 5分 | <p>7 整理運動</p> <p>8 学習の振り返り</p> <p>・友達との協力、自分の技の課題への気付きについて振り返る。</p> <p>9 片付け</p> <p>10 整列・あいさつ</p> | <p>*よく使った部位をほぐす。</p> <p>*今日の学習で見付けた技の課題や、課題を解決するために意識したことを発表させ、全体で共有する。</p> <p>*安全に気を付けて、グループで協力して行うよう伝える。</p> |

外部人材活用

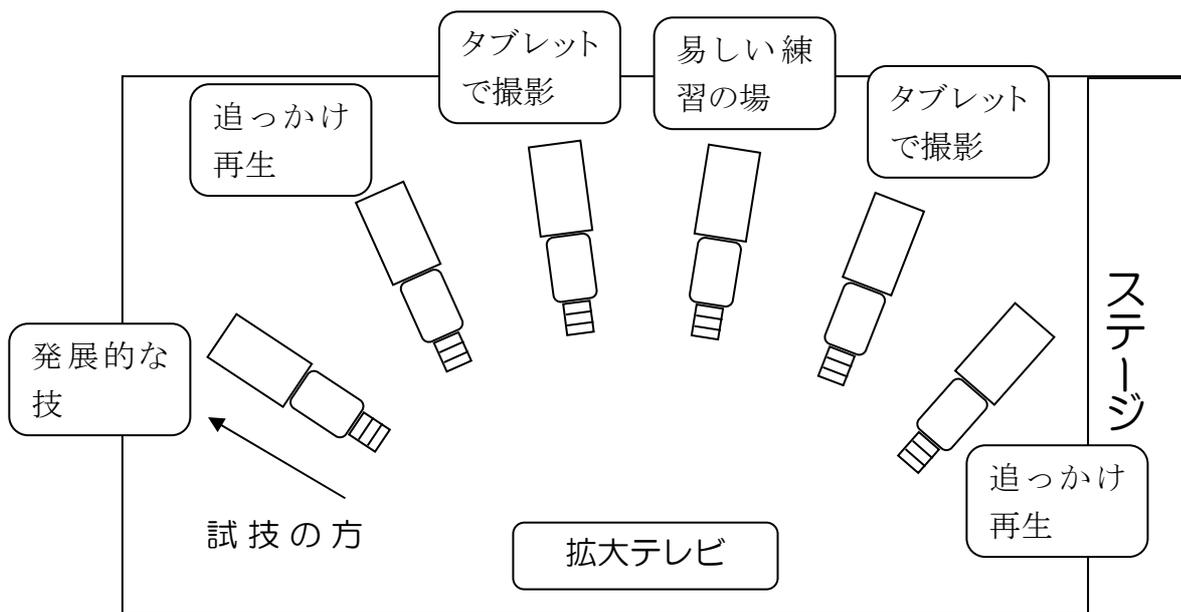
<ポイントタイム②の場の設定>

・少人数での学習を行うために編成した6～7人のグループ、計6グループで一人一人の技を動画で撮影し合い、技の課題について話し合う。※グループは、異なった技能のレベル（異質グループ）になるように編成した。



<チャレンジタイムの場の設定>

・ポイントタイム②で見付けた自分の技の課題の解決をするために、「易しい練習の場」、「タブレットで課題の箇所を撮影し合って動きを修正する場」、「タブレットの追っかけ再生の機能を活用して動きを修正する場」、「発展的な技に挑戦する場」の4つから場を選択して練習に取り組む。



跳び箱運動

1時間の流れ

学習のめあて

準備運動&補助運動

場の準備

ポイントタイム①

ポイントタイム②

チャレンジタイム

整理運動

学習の振り返り

片付け

①技のイメージをつかむ ②ポイントを知る



① 3回取り組む。

② 技の撮影

③ 課題の発見



○アングルを工夫
してポイントを確認



○易しい場で感覚作り



○タブレットを固定
して動きを確認

○発展技に挑戦



「未来の学び」創造シート

緑野小学校 1年1・2・3組
授業者 吉原あつ子(緑野小学校)
三井田 学(緑野小学校)
野上 悠(緑野小学校)

1 題材名

国語科「めざせ よみ名人」 3組
「ちょっとかわったよみかた」 1・2組

2 教科・領域の「ねらい」

- 特殊音節の入ったことばに関心をもつ。○ 特殊音節の入った語彙を増やす。
- 拗音・拗長音の音を正しく聞き取り、音と表記を正しく一致させることができる。
- 特殊音節（促音・拗音）を含んだ語を想起すること。
- 特殊音節（促音・拗音）を含んだ語を適切な表記で書くこと。

3 キャリア教育の視点からの「ねらい」

| 基礎的・汎用的能力 | ICT・学校図書館 活用型授業 | 協議型授業 | 外部人材 活用型授業 |
|------------------|--------------------|-------|---------------|
| 人間関係形成 社会形成能力 | | | |
| 自己理解 自己管理能力 | ○ | ◎ | |
| 課題対応能力 | | | |
| キャリアプランニング能力 | | | |

4 授業の概要

特殊音節の習得が苦手な児童の早期発見をするためのアセスメント用テスト及び、児童の特殊音節習得支援をするための学習教材から構成される「多層指導モデルMIM」を活用した授業です。

本校の児童は月1回アセスメントを行い、児童の読みの力についてのつまずきを把握して、個別に指示を出したり、確認をしたりするなどの支援をしています。タブレットPCを使い、MIMのトレーニングも行ってきました。特殊音節のルールについての指導は、1年生全学級で夏休み前に行いました。



今回の授業は、

3組では、これまで毎月1回の頻度で進めてきたタブレットPCを活用したアセスメント用テストとトレーニングを中心に実施します。

そして、1組では、「ことば絵カード」(左図)を自分で作ることを通して、特殊音節を含む語の理解を深め、正しく表記することができるようにすることを目指していきます。

さらに、2組では自分で作成した「ことば絵カード」を活用して交流したり、言葉集めを行ったりすることを通して特殊音節を含む語の理解をさらに深めて、正しく表記できるようになることを目指していきます。

5 学習活動の流れ

【1年3組】

課題を提示する。

○ICTを活用してモニターに大きく提示し、全体で課題を把握する。



MIMの特殊音節のアセスメント
トレーニングを行う。

○タブレットPCを活用し、MIMのアセスメント・トレーニングを行う。



特殊音節の入ったカルタを活用し
交流をする。

○拗音・拗長音の入ったことばを聞いて、拗音・拗長音のカードを取る。
○拗音・拗長音の音と表記を一致させる活動として用いる。
○読み札を聞いてもすぐに表記がイメージできない子供に対しては、繰り返し発音させるなどして、音を意識づけながら、どの表記になるのかを確認させていく。



【1年1組】

特殊音節の表記で間違いやすいところを
考える。



「ことば絵カード」を
自分で作る。



○促音(小さい「つ」)、拗音(小さい「や・ゆ・よ」)が入った言葉を考える。
○小さい「つ」の位置、小さい「や・ゆ・よ」を大きく書いてしまう、適切でないものをかいてしまうなど間違いやすいところを意識して、正答以外の選択肢を考える。
○カードに①～③までの選択肢と、イラストを描く。



【1年2組】

特殊音節の入った自作問題を、互いに解き合う。

○ 選択肢を声に出して読み、正解を確認する。



特殊音節のある言葉を想起し、言葉集めをする。
集まった言葉を、板書で分類整理する。

○ 想起した言葉を短冊に正しく書く。

○ 分類した言葉を声に出して読み上げ、特殊音節の表記の確認をする。

6 小中連携キャリア教育の視点から

自分自身にあった「学び方」を気付かせます。今後の自分の成長のために自分にあった、自分らしい学び方を探り、今後の学びにつなげます。

「未来の学び」創造シート

緑野小学校 第2学年1・2・3組
授業者 渡邊 朱実 (緑野小学校)
片山 奈々 (緑野小学校)
瀬口 有見子 (緑野小学校)

1 題材名
国語科「声に出して楽しもう」

2 教科・領域の「ねらい」

- 語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけながら、楽しく音読することができる。
- タブレット機器を活用することで自分達の姿を客観的に見て、よいところや改善点を見つけようとする。
- 友達と交流する中でよりよい群読にするための方法を考え、工夫しようとする。

3 キャリア教育の視点からの「ねらい」

| 基礎的・汎用的能力 | ICT・学校図書館 活用型授業 | 協議型授業 | 外部人材 活用型授業 |
|------------------|--------------------|-------|---------------|
| 人間関係形成 社会形成能力 | ○ | ○ | |
| 自己理解 自己管理能力 | | | |
| 課題対応能力 | ◎ | ○ | |
| キャリアプランニング能力 | | | |

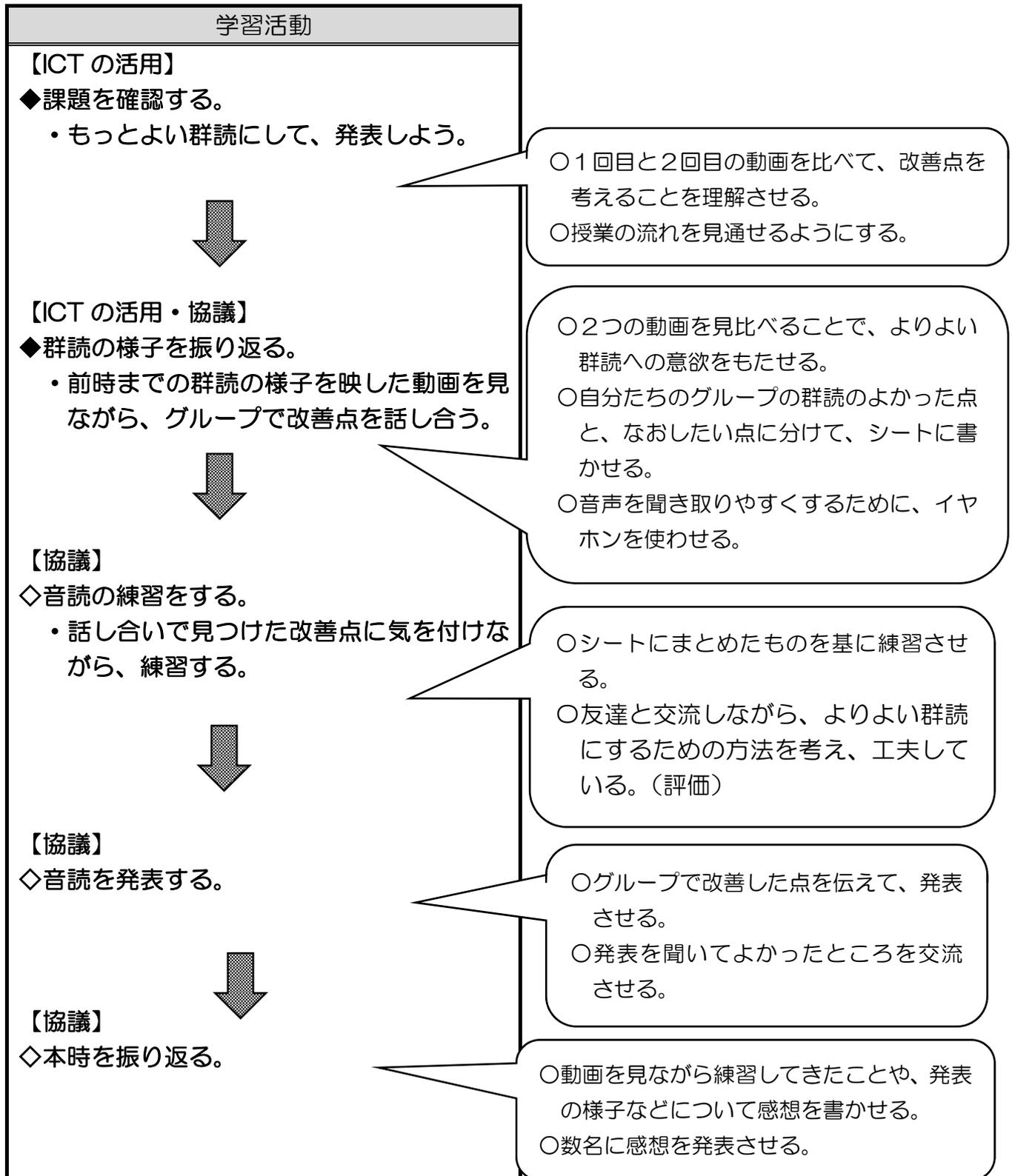
4 授業の概要

本授業では、タブレットPCを児童が小グループで群読する活動で使用することによって、児童自身が自らの姿を振り返り、よいところや改善点を探し、修正する活動を行います。本時の前に教科書を用いて「てのひらを太陽に」に触れ、詩の読み方や楽しさを味わいます。3つの詩からグループごとに取り組みたい詩を選び、群読を行います。タブレットを使って客観的な視点で自分達の姿を観察し、グループで交流することによって、詩の楽しさを味わうことを目指します。



国語科の詩の音読をタブレットで録画し、確認している授業の様子

5 本時の学習活動



6 小中連携キャリア教育の視点から

ICT をツールとして活用した「課題対応能力」を育成する学びです。ツールとして効果的に ICT を活用することを体得することにより、今後の学びにつなげていきます。

「未来の学び」創造シート

緑野小学校 3年1組
 授業者 見米美喜子(緑野小学校)
 日本科学未来館・(株) RICOH
 との協働授業

1 題材名

理科 「生き物から学ぼう」

2 教科・領域の「ねらい」

○ 身近な生き物の形態や機能に目を向け、生物への興味・関心を高める。

3 キャリア教育の視点からの「ねらい」

| 基礎的・汎用的能力 | ICT・学校図書館 活用型授業 | 協議型授業 | 外部人材 活用型授業 |
|------------------|--------------------|-------|---------------|
| 人間関係形成 社会形成能力 | ○ | ○ | ◎ |
| 自己理解 自己管理能力 | | | |
| 課題対応能力 | | ○ | |
| キャリアプランニング能力 | | | |

4 授業の概要

生物が長い進化の過程で獲得してきた機能や形状を模倣し、先端技術に生かしていく「バイオミメティクス（生物模倣）」について触れる授業。

小学校第3学年の学習内容である「身近な自然の観察」では、身の回りの生物の様子について観察活動を重ね、生物への興味・関心を高め、生物の形態についての見方や考え方を養います。その発展学習として本学習を設定しました。

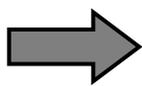
私たち教員は、子ども達に「理科学習が自分たちの生活に活用されている有用性の高い学びである」と実感させることを意識して、身近な事象・事物を扱いながら日々の実践を重ねています。しかし、生物観察单元などでは「有用性」を感じさせることはなかなか難しいのではないのでしょうか。そこで今回は、身近な生物の有用性に焦点を当てて、授業作りをしました。日本では、生物模倣技術の画期的な研究成果が相次いでいて、技術開発に生かされています。今年5月に、日本の大学の研究チームがテントウムシの翅の折り畳みの仕組みを解明し、宇宙技術がまた一歩進むだろうというニュースも話題になりました。まさに身近な生物から人間が学んだ技術革新です。

また、ICT機器を活用し、外部人材として日本科学未来館のご協力をいただきます。事例紹介や解説など、より専門的な知識に子ども達が触れ「学びへの意欲」を高められるようにしました。

子ども達が、「生き物ってすごいね！」と「機能」という新たな視点で身近な生き物を見つめ、興味関心を高めてくれることをねらいとしています。



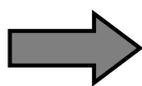
テントウムシの翅の折り畳み



宇宙設置作業の小型化

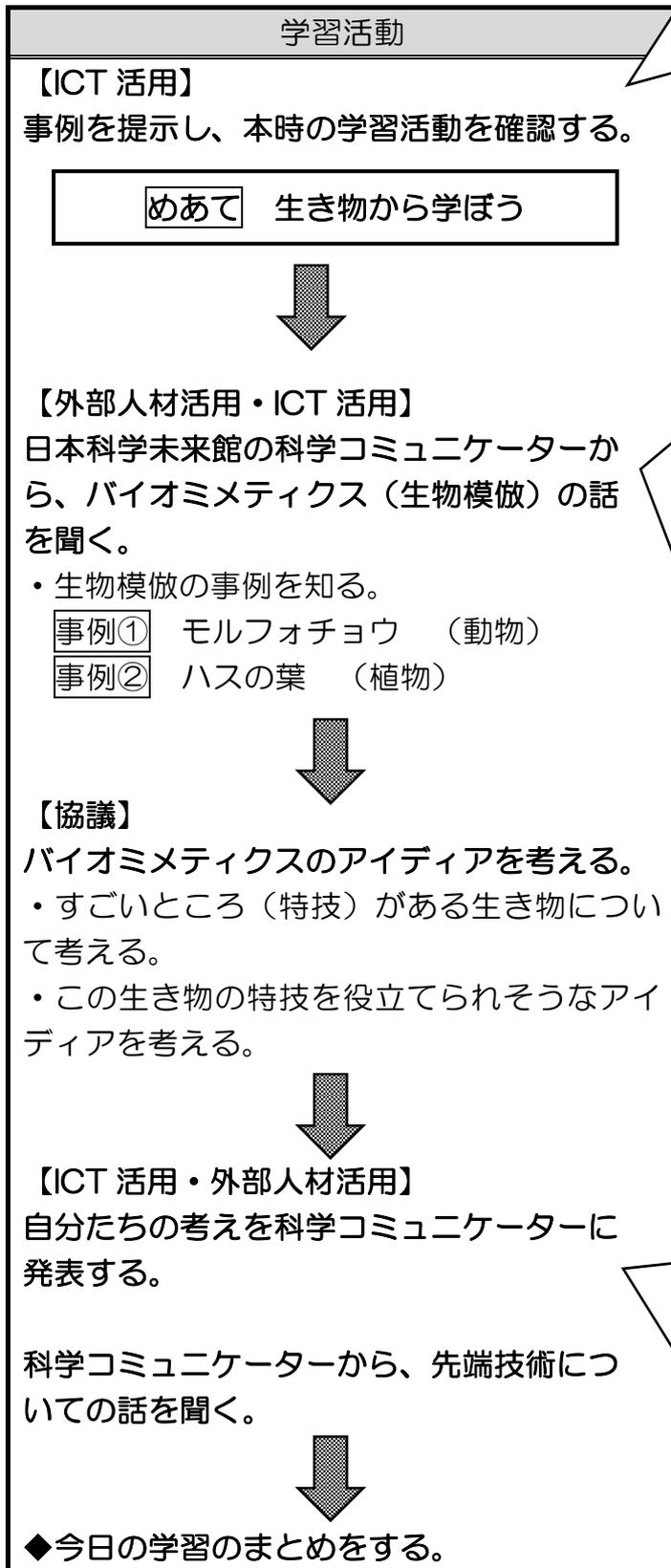


蚊の血を吸うメカニズム



痛みの少ない注射針

5 本時の学習活動



- カワセミのくちばし写真
…水面に突入する際の衝撃を抑える流線型
- 新幹線のノーズの写真
…時速300Kmでトンネルに突入する際の騒音発生を防ぐため

- ICTを活用し、日本科学未来館と回線をつなぐ。
 - 科学コミュニケーターの方と対話しながら、バイオミメティクスの考え方を知る。
- モルフォチョウ**
光の屈折の違いで発色させるので、見る角度や光の強さによって羽根の色が異なる。
- ☆先端技術☆ ⇒発色する進光学繊維
(ドレスなどの布地で利用)

- ハスの葉**
葉の表面が多孔性の微細構造であることから、表面張力で水滴が丸まり泥汚れを絡め取りなが転がり落ちるので、葉の表面はいつもきれいに保たれる。
- ☆先端技術☆ ⇒ 布の撥水加工

- 自分たちの考えを、ICTを使って科学コミュニケーターに伝える。
- 「蜂の巣」から学んだハニカムサンドウィッチ構造が、様々な輸送機関に活用されており、宇宙開発にも役立つという話を聞き、生き物の巧みな機能、能力について改めて気づき、身近な生き物をよく見て学んでいこうという姿勢を育む。
(評価)

6 小中連携キャリア教育の視点から

外部人材から先端技術を学び「社会形成能力」を育成しました。これからの学びを深めていきます。

「未来の学び」創造シート

緑野小学校 3年2組
授業者 阿久津淳子(緑野小学校)
学校司書との協働授業

1 題材名
社会科「古い道具と昔の暮らし」

2 教科・領域の「ねらい」
○ 古い道具について図書資料やICTを使って調べることを通して、昔の道具や暮らしに関心をもつ。

3 キャリア教育の視点からの「ねらい」

| 基礎的・汎用的能力 | ICT・学校図書館 活用型授業 | 協議型授業 | 外部人材 活用型授業 |
|------------------|--------------------|-------|---------------|
| 人間関係形成 社会形成能力 | | | |
| 自己理解 自己管理能力 | | | |
| 課題対応能力 | ◎ | ○ | ○ |
| キャリアプランニング能力 | | | |

4 授業の概要

学校図書館での図書資料とインターネット(電子百科事典)を活用して、学校司書とともに調べ学習を展開します。

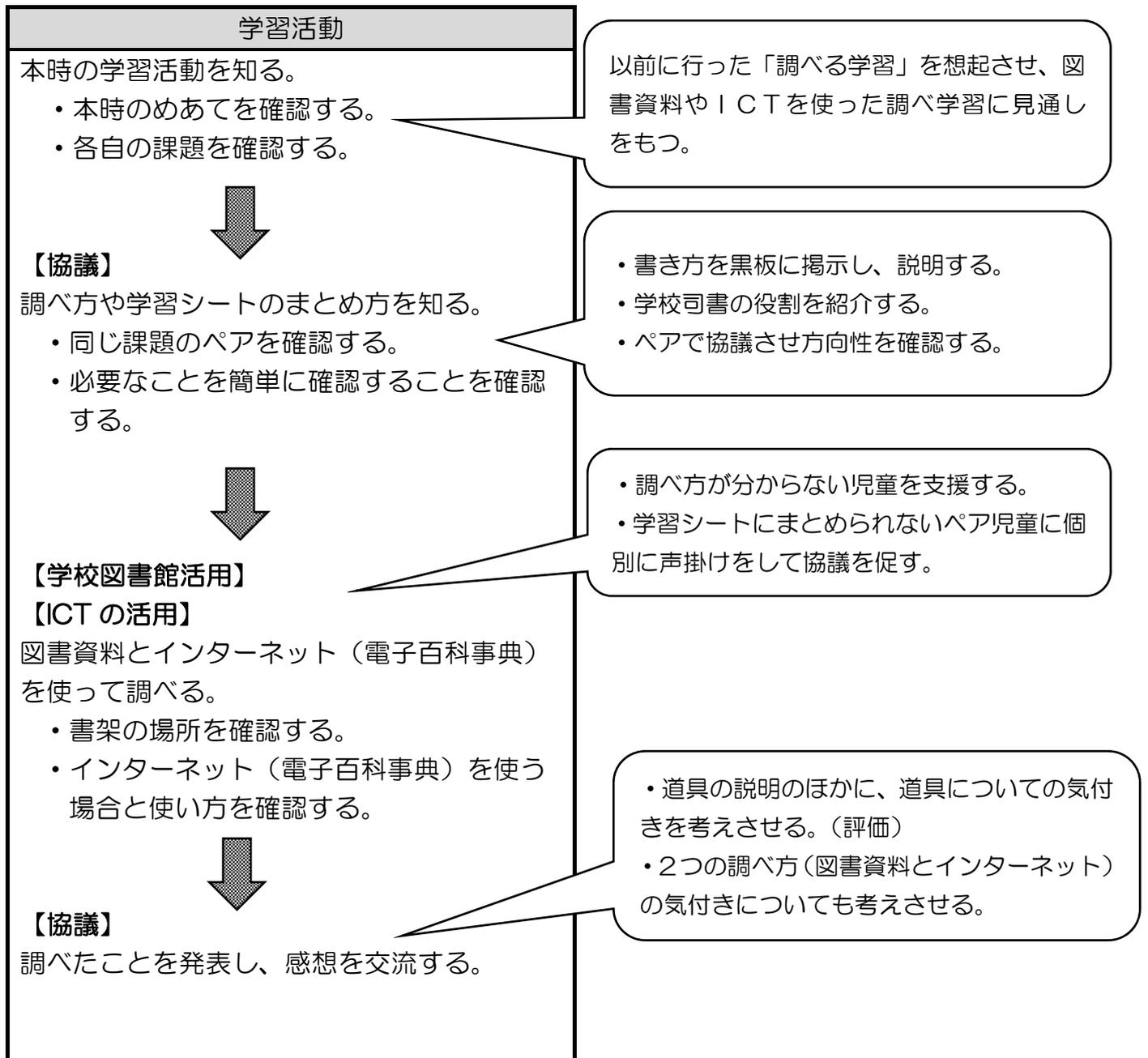
過去の生活における人々の知恵に気づいたり、地域の人々の生活の変化について考えたりするために、古くから残る暮らしに関わる道具、それらを使っていたころの暮らしの様子を調べる活動です。

昔の道具の様子や使い方などに興味・関心をもたせながら、児童にとって初めての歴史的な内容を身近に感じることができるようしていきます。

最終的に、郷土資料館を見学したり、昔の道具を実際に使ったりして、体験的に学べるように、直接かかわり触れ合いながら学ぶことも実施します。



5 本時の学習活動



6 小中連携キャリア教育の視点から

学校司書との協働により学習センター・情報センターとして学校図書館を活用した学びです。「情報活用能力」の基礎を育成します。これにより「課題対応能力」を高めて、今後の学びを深めていきます。

「未来の学び」創造シート

緑野小学校 3年3組
授業者 坂本 薫（緑野小学校）
川西 雄輝（緑野小学校）

1 題材名
三角形のなかまを調べよう「三角形と角」

2 教科・領域の「ねらい」
三角形についての観察や構成などの活動を通して、三角形を構成する要素に着目し、二等辺三角形や正三角形、角について理解する。

3 キャリア教育の視点からの「ねらい」

| 基礎的・汎用的能力 | ICT・学校図書館 活用型授業 | 協議型授業 | 外部人材 活用型授業 |
|------------------|--------------------|-------|---------------|
| 人間関係形成 社会形成能力 | ○ | ○ | |
| 自己理解 自己管理能力 | | | |
| 課題対応能力 | ○ | ◎ | |
| キャリアプランニング能力 | | | |

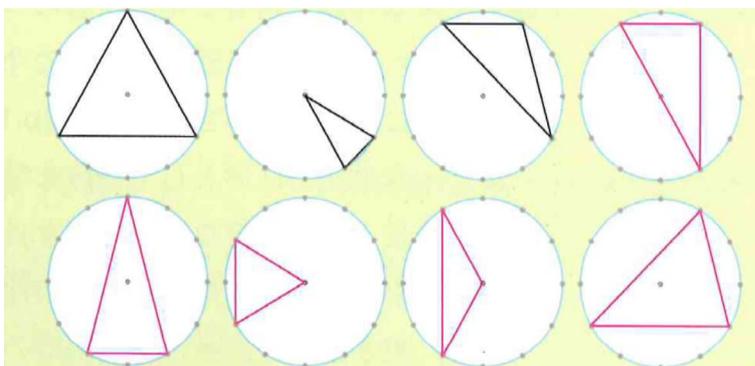
4 授業の概要

本時の学習は、円周上にある点や円の中心を結んで三角形をかき、辺の長さに着目して分類することを通して、既習の円の学習を振り返るとともに「二等辺三角形」や「正三角形」の意味について理解することをねらいとします。

はじめに円周上に12個の・を等間隔に打った図を提示し、円周上の「・」や中心の「・」を結んで三角形を作ります。円を活用するのは、円の半径の長さが一緒であることや、置かれた位置や向きに関係なく同一の図形として捉えられるようにという意図があります。

タブレットPCで学習者用デジタル教科書を使い、一人ひとりが様々な三角形を作ります。その際、タブレットPCを活用することで容易に線を書いたり消したりすることができ、様々な三角形を自由に作ることができます。

さらに、作成した三角形を辺の長さに着目して分類整理します。ここではタブレットPC



児童が作成する図形の例

Cを用いてグループで話し合います。グループで分類した三角形を見せ合いながら、互いの考えを発表し合います。タブレットPCを活用することで、図形を自由に動かしたり、同じ長さの線を色分けしたりすることは容易になり、友達の図形と見比べながら試行錯誤して分類方法を考えることができます。

5 本時の学習活動

学習活動

【ICTの活用】
問題を把握する。

- 身の回りから三角形の形をしたものを見つける。
- 円周上の点や円の中心を直線で結んで、いろいろな形の三角形を作る。
- できた三角形を観察し、問題をとらえる。

↓

【ICTの活用】
自力解決をする。

- 三角形を分類し、どの観点で分類したのかははっきりさせる。
- 何を観点にして分類したらよいか話し合う。

長さの等しい辺の数に目をつけて、三角形を仲間わけしよう。

【ICTの活用】【協議】
集団解決をする。

- 班で、自分の分類を発表し合う。
- クラスで、どのように分類したか発表しあう。

↓

学習のまとめをする。

- 二等辺三角形と正三角形の定義を知る。

指導者用デジタル教科書で、身の回りにある三角形をテレビに示し、三角形にはいろいろな形があることを確認する。

学習者用デジタル教科書を使用し、円を活用して三角形を作図する。その際、色分けしたり向きを変えたりできることを確認し、わかりやすく工夫する。

作成した三角形をタブレットPCの画面上で自由に動かしながら分類する。

班での話し合いでは、班の友達とタブレットPCを見せ合いながら、説明するようにする。

クラス全体での話し合いでは、児童のタブレットPC画面をテレビ画面に映して発表する。

指導者用デジタル教科書で、三角形の定義を示す。

定義を確認した後で、もう一度タブレットで、自分の三角形を見直し、二等辺三角形と正三角形とその他の三角形の3つに分類できているかを確認する。
(評価)

6 小中連携キャリア教育の視点から

ICTを話し合いのツールとして活用して課題を「自力」→「グループ」→「集団」で解決する学びです。これにより「課題対応能力」を育成して、今後の学びを深めていきます。

「未来の学び」創造シート

緑野小学校 4年1・2組
授業者 安藤 亨(緑野小学校)
只野 香苗(緑野小学校)
(株)花王との協働授業

1 題材名

社会科「くらしをささえる水」
総合的な学習の時間「節水プロジェクト」

2 教科・領域の「ねらい」

- 生活で使われている水に関心を持ち、飲料水の大切さや安全な水を確保するための努力を調べ、自分にできる協力や工夫をしようとする。
- 課題に応じた発信の仕方を見付け、情報を選択し、工夫して発表することができる。

3 キャリア教育の視点からの「ねらい」

| 基礎的・汎用的能力 | ICT・学校図書館 活用型授業 | 協議型授業 | 外部人材 活用型授業 |
|------------------|--------------------|-------|---------------|
| 人間関係形成 社会形成能力 | | ○ | ○ |
| 自己理解 自己管理能力 | | ○ | |
| 課題対応能力 | ○ | ◎ | ◎ |
| キャリアプランニング能力 | | | |

4 授業の概要

児童は、社会科で学習した知識をもとに発信したいことを考え、社会科見学で体験的に学んだことを取り入れながら、「節水プロジェクト」として「節水」に取り組んできました。そして「節水」を世の中に広めるCMづくりに挑戦しています。最初にCMづくりの専門家である外部人材（実際にCMを制作する人）から、CMづくりについてレクチャーを受け創作活動を進めています。

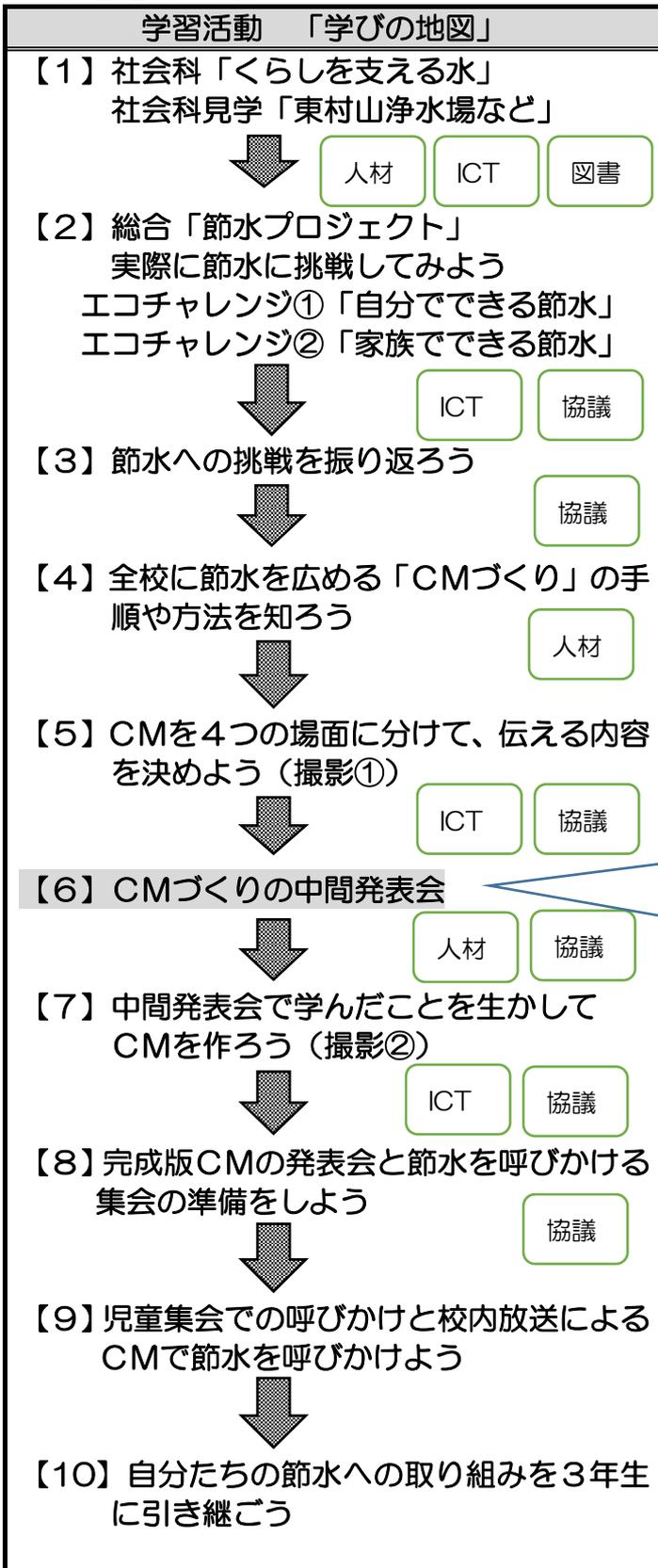


12月12日(火)
外部人材講師によるCMづくりのレクチャー授業

本授業は、CMづくりの中間発表会です。本時は実際にCMの企画書を作成し、それらについて講師から「今後どのように工夫したら、よりよく伝わるか」という改善点についての指導を受けます。児童はそのアドバイスから自分たちに必要な情報を収集、選択します。また、講師のアドバイスを活かして、自分たちの作品をふりかえり、友達と対話しながら、さらに伝わりやすいCMにするための方策を協議していきます。

本授業は外部人材とICTを活用し、よりよく問題を解決する資質や能力の育成を目指すものです。

5 学習活動の流れ



【学校図書館活用】 = 図書

【ICTの活用】 = ICT

【外部人材活用】 = 人材

【協議】 = 協議

<本時の学習活動>

- ①教室に掲示してある「学びの地図」で本時はCMの中間発表をすることを確認する。
- ②外部人材（(株)花王の講師）の紹介
- ③各班で作ってきたCMを拡大テレビで発表する。
- ④講師の先生からの各班にアドバイスをもらい、自分の班のCMづくりに生かせるポイントをワークシートにまとめる。（評価）
- ⑤各班で講師の先生のアドバイスを生かして、次回の撮影に向けて修正することを話し合う。
- ⑥各班で話し合ったことを全体で共有する。
- ⑦「学びの地図」で次回の授業の内容を確認し、学習に見通しをもつ。

6 小中連携キャリア教育の視点から

外部人材との協働による課題解決型の学習です。「課題対応能力」を育成し、今後の学びを深めていきます。

「未来の学び」創造シート

緑野小学校 5年1組

授業者 北山 広美（緑野小学校）

岡田 綾（緑野小学校）

（株）YAMAHA との協働授業

1 題材名

日本の四季の詩にあわせた旋律を創ろう
音楽科「音楽づくり」 国語科「詩をつくろう」

2 教科・領域の「ねらい」

- ICTを活用して、幾つかの音を関連付けてまとまりのあるものにしていく。
- 児童が自分の考えや願い、「こんな音楽にしよう」といったイメージをもち、試行錯誤しながら創意工夫する。
- 学校生活・日本の四季から連想される言葉や想いを詩に表す。（国語科）

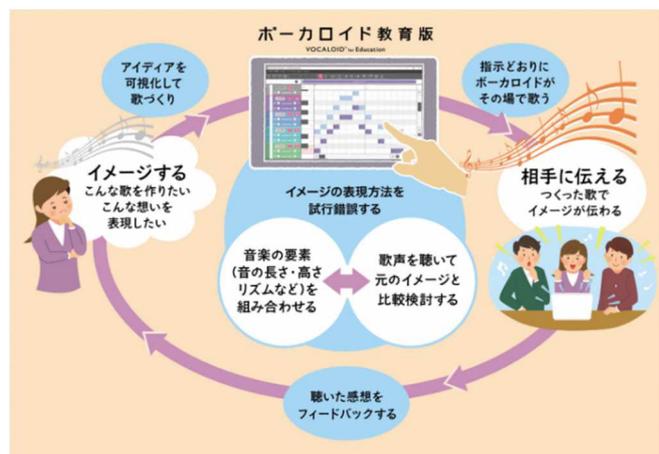
3 キャリア教育の視点からの「ねらい」

| 基礎的・汎用的能力 | ICT・学校図書館 活用型授業 | 協議型授業 | 外部人材 活用型授業 |
|------------------|--------------------|-------|---------------|
| 人間関係形成 社会形成能力 | ○ | ○ | |
| 自己理解 自己管理能力 | | | |
| 課題対応能力 | ○ | ◎ | |
| キャリアプランニング能力 | ○ | | |

4 授業の概要

「VOCALOID™」の学校教育用ソフトウェア「VOCALOID™ for Education」を活用した「音楽づくり」の授業です。タブレットPCを2人に1台で活用することで主体的・対話的な学びを引き起こしました。

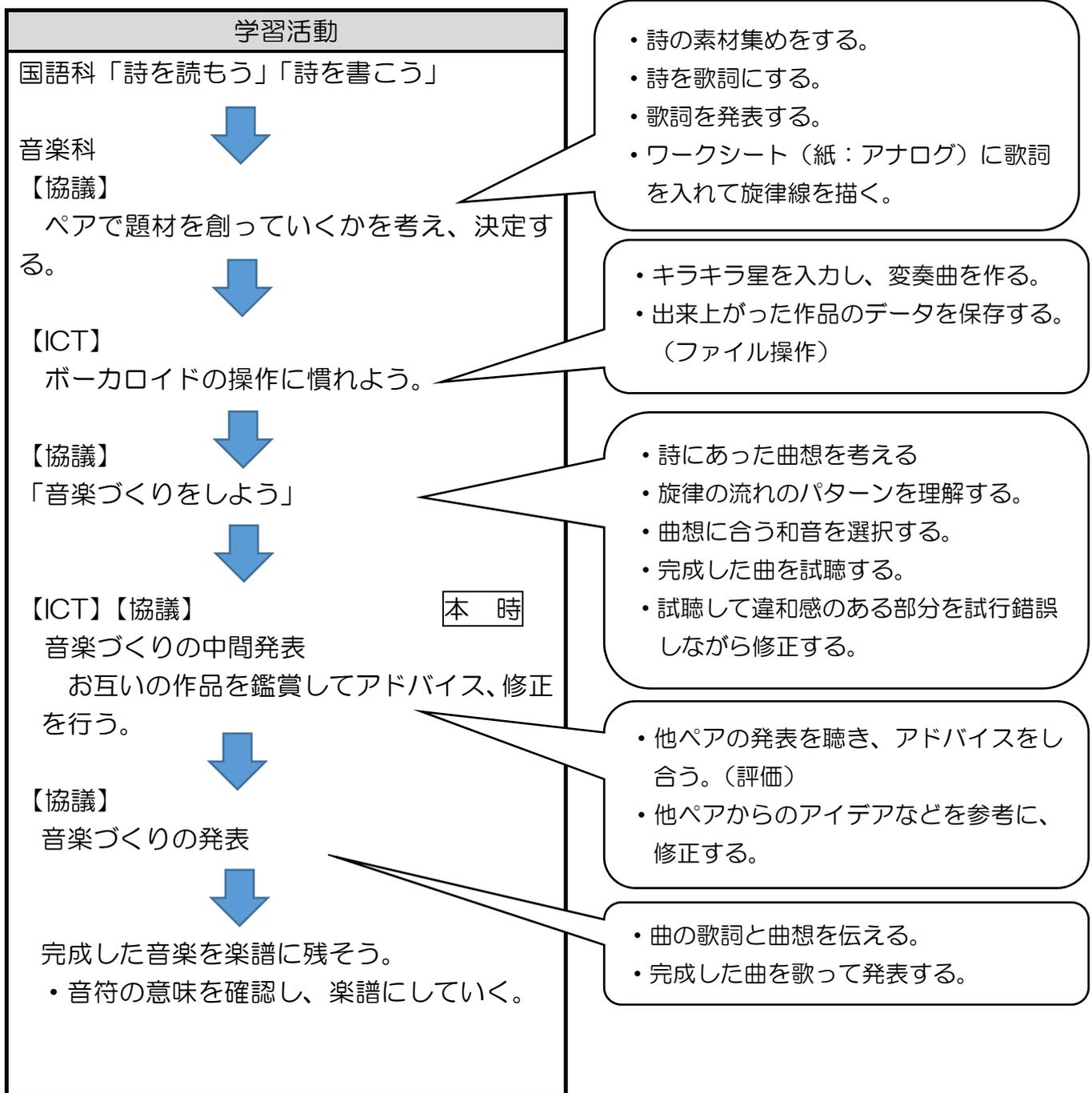
まず国語科「詩を作ろう」で、学校生活・日本の四季から児童が書きたい題材を選び、そこから連想される言葉や想いを書き出しました。



音楽科では、2人ペアでどのような曲想にするかイメージし、曲に合う和音進行を選びました。和音一つでも出来上がる音楽が変わってきます。選ぶ活動にも子ども達の想いが入ります。和音構成音を手掛かりに、創作していきます。

自分で作った詩に、曲想を表現する音高・リズムを選んで入力します。何度も聴いて修正し、試行錯誤を重ねて一つの作品を完成させます。授業の終盤で、作った曲をボカロイドと共に歌います。

5 学習活動の流れ



6 小中連携キャリア教育の視点から

「VOCALOID™ for Education」を活用して、プログラミングを体験しながら、コンピュータに意図した処理を行わせ、「論理的思考力」を身に付けるための学習活動でもあります。これにより「課題対応能力」を育成して、今後の学びを深めていきます。

「未来の学び」創造シート

緑野小学校 5年2組
授業者 吉田 智美(緑野小学校)
(株)日立製作所との協働授業

1 題材名
社会科 「情報化した社会とわたしたちの生活」

2 教科・領域の「ねらい」

- 課題解決や目的のために、有効に情報を活用しようとする。
- ICTの進化が生活に大きな影響を及ぼし、社会的な課題の解決につながっていること、そのために情報の有効な活用が大切であることを理解する。
- 情報産業で働く人々がどんな工夫や努力をしているのかを知り、ICTや情報産業への興味・関心を高める。

3 キャリア教育の視点からの「ねらい」

| 基礎的・汎用的能力 | ICT・学校図書館 活用型授業 | 協議型授業 | 外部人材 活用型授業 |
|------------------|--------------------|-------|---------------|
| 人間関係形成 社会形成能力 | ○ | ○ | ○ |
| 自己理解 自己管理能力 | | | |
| 課題対応能力 | ○ | ○ | ◎ |
| キャリアプランニング能力 | ○ | | ○ |

4 授業の概要

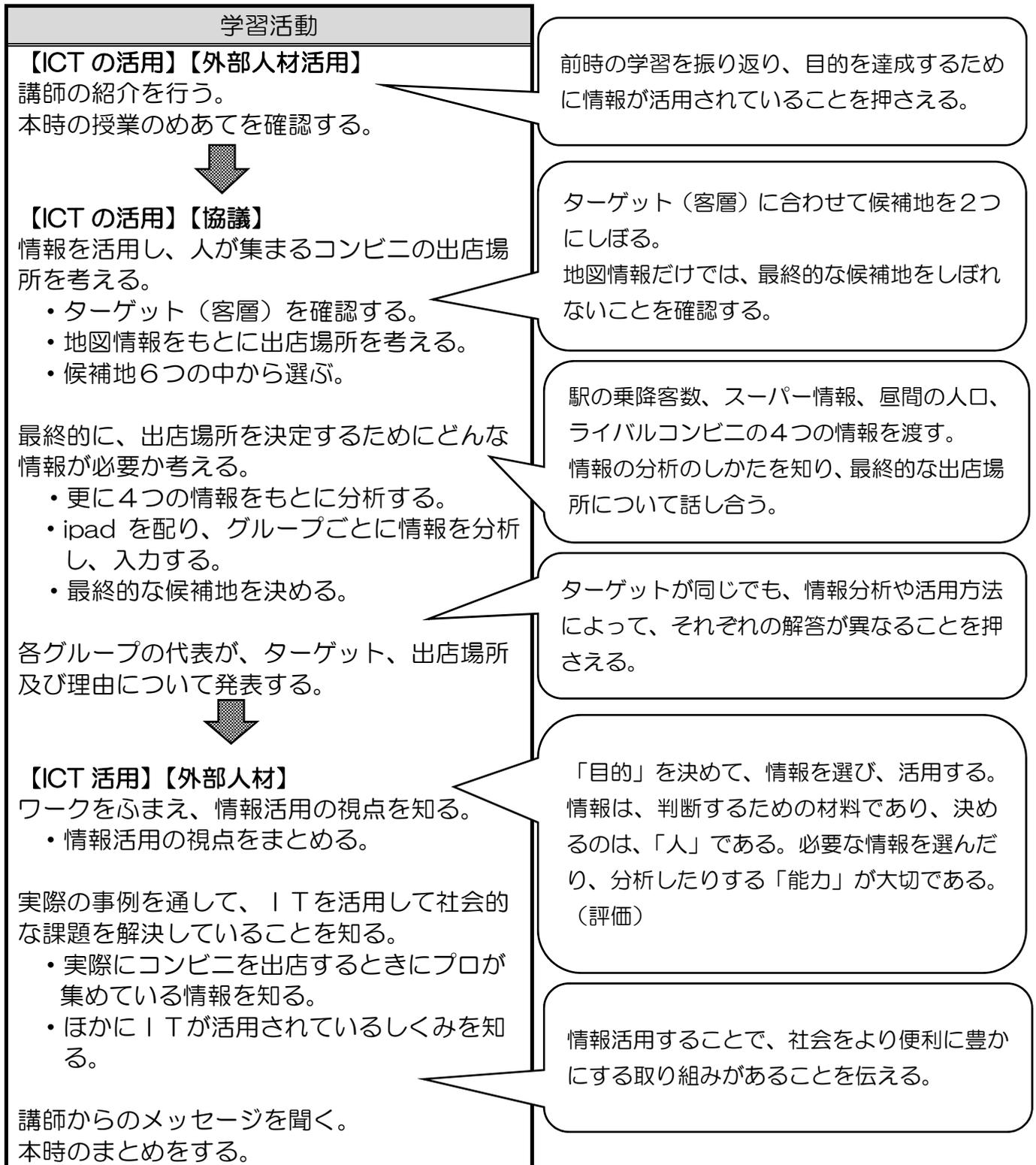
社会科「情報化した社会とわたしたちの生活」で、情報ネットワークの仕組みについて知り、情報を生かすためにはどうすればよいか考え、学習を進めてきました。本授業は、発展的プログラムとして構成され、「社会科+情報教育+キャリア教育」の要素を盛り込んだ内容になっています。事前授業として、身のまわりの生活で使われる「ICT（情報技術）」をふりかえり、情報社会におけるICTの役割や重要性を確認していきます。中でも、コンビニでは、ターゲットにする客層によって、並んでいるお弁当の種類や数が異なることを知り、そのために情報収集や分析が必要であることを理解しました。



今回、コンビニ出店のワークに取り組むことで、情報活用を体験できるように構成され、情報活用の専門家である外部人材に教わることで、情報活用の大切さや視点を理解していきます。情報をどう活用し、よりターゲット（客層）に合う場所はどこかを考え、コンビニ出店の計画をグループで協議していく。また、情報の表示や分析はICTを活用し、見やすく分かりやすく伝えるようにしています。

以上のように、本授業は外部人材とICTを活用し、よりよく問題を解決する資質や能力の育成を目指すものです。

5 本時の学習活動



6 小中連携キャリア教育の視点から

外部人材からの実社会での情報の活用方法を学びました。「情報活用能力」の育成により「課題対応能力」を高め、これからの学びを深めていきます。

「未来の学び」創造シート

緑野小学校 6年1・2組

授業者 山岡 恭子（緑野小学校）

田尻 佑樹（緑野小学校）

（株）FPV Robotics との協働授業です。

1 題材名

総合的な学習の時間「Drone Impact Challenge Education」

2 教科・領域の「ねらい」

- ドローンが動く仕組みや様々な分野で活用されている現状を理解するとともに、ドローンをこれからの未来社会でどのように活用できるかを考える。
- 課題に対して、解決までの方策を自分なりに考えをもち、友達と話し合い、課題解決を図る。

3 キャリア教育の視点からの「ねらい」

| 基礎的・汎用的能力 | ICT・学校図書館 活用型授業 | 協議型授業 | 外部人材 活用型授業 |
|------------------|--------------------|-------|---------------|
| 人間関係形成 社会形成能力 | | ○ | |
| 自己理解 自己管理能力 | ○ | | ○ |
| 課題対応能力 | ◎ | ○ | ○ |
| キャリアプランニング能力 | | ○ | ○ |

4 授業の概要

外部人材を活用して、ドローンが動く仕組みや現状を理解するとともに、自分たちのこれからの生活でドローンをどのように活用できるのかを考え、ICTや協議を通して課題解決を図ります。現在、様々な分野で活用が期待されているドローン。外部人材を活用しドローンの構造や動かす方法を児童は学び、自分たちで動かすオペレーション体験をしました(第1時)。ドローンを操縦できるようになった児童は、自分たちの生活でドローンをどのように活用できるかを考え、話し合いました(第2時)。



協議の中から次の3つの方向性(目標)が出されました。

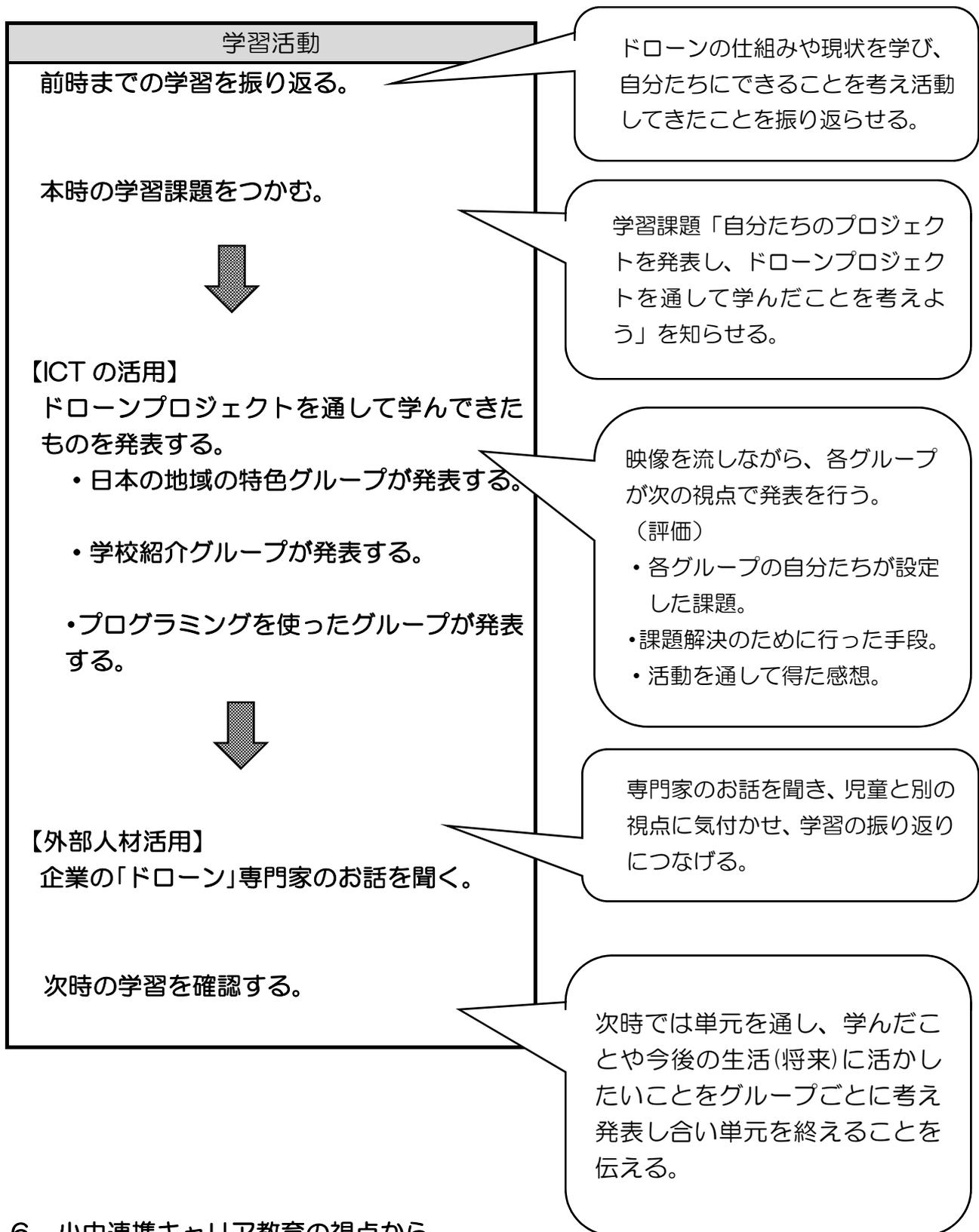
- ① ドローンのカメラ機能を活用し、「学校紹介VTR」を作成する。
- ② ドローンのカメラ機能を活用し、日本の地域の特徴を、地上絵を通して紹介する。
- ③ プログラミングでドローンを自動操縦して、その動きと合わせたダンスを創る。

上記の3つを「ドローンプロジェクト」と名付け、グループごとに協議を重ね(第3～9時)その成果を12月の学習発表会で全校児童、保護者へ向けて発表しました。

本時では、学習のまとめとして、自分たちがグループごとに協議し目標を定め進めてきたプロジェクト(学習過程や成果)を各グループに向けて発表し共有していきます。

次時では単元を通し、学んだことや今後の生活(将来)に活かしたいことをグループごとに考え発表し合い学習をまとめる予定です。

5 本時の学習活動



6 小中連携キャリア教育の視点から

ドローンを活用したプログラミング学習を通して「論理的思考力」の育成にあたりました。これにより「課題対応能力」を育成して今後の学びを深めていきます。

おわりに

副校長 牧岡 優美子

平成29年3月に示された新学習指導要領を受け、本校の研究はサブタイトルの「～主体的・対話的で深い学びを通して～」を強く意識したものになりました。他者と協働し対話する中で、よりよい考えを導き出すプロセスの楽しさが、児童の学習意欲を高めてきました。

また、平成28・29年度の2年間は中野区教育委員会「学校教育向上事業」研究指定校に委嘱され『未来社会を見据えた「未来の学び」の創造～保幼小中連携「キャリア教育の実践」～』をテーマに研究を進めてまいりました。日常的にICTを活用し学びに役立つツールとして認識させたことで、児童が自らICTを活用して学びを展開するようになってきました。ドローンが飛びボーカロイドで作曲するプログラミング教育や、遠隔授業で専門家と協働したりオーストラリアの学校と交流したりする未来を見据えた学びにも取り組んできました。児童が「未来が楽しみ」と話していたことは、大きな成果であったと感じています。そして平成30年1月19日の研究発表会には、400名を超える来校者に研究の一端をご覧いただくことができました。しかしながら研究は道半ばです。これからも児童の実態や変容をしっかりと見つめ、着実に研究を進めていきます。

末筆になりましたが、本校の研究に対しまして丁寧なご指導をいただきました東京女子体育大学 教授 田中 洋一先生、小林 福太郎先生に心から御礼を申し上げますとともに、今後とも一層のご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

～研究に携わった教職員～

| 校長 駒崎 彰一 | | 副校長 牧岡 優美子 | | |
|----------|--|------------|--------|--------|
| 学級担任 | 1組 | 2組 | 3組 | |
| | 1年 | 吉原 あつ子 | 三井田 学 | 野上 悠 |
| | 2年 | ◎渡邊 朱実 | 片山 奈々 | 瀬口 有見子 |
| | 3年 | ○見米 美喜子 | 阿久津 淳子 | 川西 雄輝 |
| | 4年 | ○安藤 亨 | ○只野 香苗 | |
| | 5年 | 岡田 綾 | 吉田 智美 | |
| | 6年 | 山岡 恭子 | ○田尻 佑樹 | |
| 専科・講師 | (少人数) ○坂本 薫 (音楽) 北山 広美 (図工) 佐藤 ひろみ (養護教諭) 熊谷 頼子 (非常勤) 金田 文子 (特支専門員) 河野 順子 (講師) 鈴木 美保 (講師) 倉地 暁美 (講師) 佐野 隆太 (学習指導支援員) 新井 雅菜、千田 美月 (理科実験) 松岡 哲史 (図書館指導) 松川 礼子 (介助員) 瀬賀 智恵子・和阪 香織 | | | |
| 事務・校務主事 | (事務) 岩堀 京子 (主査) 小高 伸明 (主事) 根岸 幸代 | | | |
| カウンセラー | (SC) 竹内 歩 (心の教室相談員) 町田 和美 | | | |

◎研究推進委員長

○研究推進委員